令和5年12月15日発行（毎月1回15日発行） ISSN 2436-7176

日本地質学会 News

Vol.26 No.12 December 2023

報告　2024年度代議員選挙について
会長・副会長立候補意思表明者への意向調査について

第15回

惑星地球フォトコンテスト

地球の大地が持つ風景・自然美
岩石・地層・化石，ジオパーク，ジオ鉄

最優秀賞　5万円　その他多数賞
優秀賞，入選，地質学会賞（学会員）
スマホ賞，ジオ鉄賞
大学生 / 大学院生賞
小 / 中 / 高校生賞

応募締切
2024 1/31（水）

申し込み方法 photo.geosociety.jp
WEB 応募，郵送応募いずれも可
郵送は同日必着

お問いあわせ
Tel 03-5823-1150
mail: photo@geosociety.jp

主催：一般社団法人 日本地質学会
後援：NPO 法人 日本ジオパークネットワーク
深田研ジオ鉄普及委員会
協賛：株式会社ウインディーネットワーク

Wadi El-Dabbah, East Desert, Egypt:　Photo by S. Kiyokawa

日本地質学会*News*

Vol.26 No.12 December 2023

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　松田達生
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

報告　2024年度代議員選挙について……2

会長・副会長立候補意思表明者への意向調査について……3

2024年度一般社団法人日本地質学会研究奨励金募集……4
2024年度一般社団法人日本地質学会研究奨励金募集要項
一般社団法人日本地質学会 研究奨励金規則

案内……6
原子力総合シンポジウム2023

公募……6
広島大学大学院先進理工系科学研究科教員の公募

各賞・研究助成……6
三菱財団第55回（2024年度）自然科学研究助成公募/令和6年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業助成金募集/2024年度「深田研究助成」

CALENDAR……7

紹介……9
コーウェン地球生命史 第6版　マイケル　ベントン 編，ロバート ジェンキンズ，久保　泰 監訳（池田昌之）

学協会・研究会報告……10
国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2023年総会及び第20回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム 参加報告（吉田　勝・角替敏昭）

博物館・ジオパークで地球を学ぼう！（24）……12
南紀熊野ジオパークの魅力（本郷宙軌・福村成哉・後呂好俊）

日本地質学会第130年学術大会（京都大会）報告……14
Hコース，ワークショップ：堆積学の水理実験・理論講習会

地質学雑誌：新しい論文が公開されています……14

支部コーナー……15
西日本支部：令和5年度総会・第174回例会の案内

委員会だより……16
地質技術者教育委員会：開催報告「2023年度　学生のための地質系業界説明会」～その業界の仕事を知るためのサポートサービス～

2024年度の会費払込について……21

学会記事……22
2023年度第1回理事会議事録
2023年度第2回執行理事会議事録/2023年度第3回執行理事会議事録/2023年度第4回執行理事会議事録

訃報……28

表紙紹介……28
第14回惑星地球フォトコンテスト優秀賞「Lingshed Village」（佐藤竜治）

（お知らせ）“geo-flash”の一部不達について

メルマガ“geo-flash”（毎月第 1, 3 火曜定期配信）は，11 月配信分より新システムからの配信に切り替わりました．

それに伴い，これまで配信されていたメールアドレスに対しても，一部配信エラー（メール不達）が発生しています．現在，システムの設定，サーバ情報等を確認し，問題解消に向けて対応をしています．ご了承ください．なお，これまでに配信されたメルマガのアーカイブは，学会 HP からご覧いただけます．
https://geosociety.jp/faq/content0005.html
（右記 QR コードからもアクセスできます）

学会事務局年末年始休業のお知らせ

2023年12月29日（金）～2024年1月4日（木）

学会事務局は上記の通り，休業となります．新年5日より営業いたします．本年も大変お世話になり，ありがとうございました．来年も引き続きよろしくお願い申し上げます．

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

2024年度代議員選挙について

2023年11月27日

一般社団法人日本地質学会
選挙管理委員会委員長　金澤直人

選挙規則ならびに選挙細則に基づき，標記選挙を実施するにあたっての立候補届は，11月20日に締め切られました．その結果，全国区・地方支部区とも立候補者数が定員を超えませんでしたので，選挙規則第6条に基づき投票は行わず，全員を無投票当選といたします．

なお，立候補の抱負など，当選された方の詳細につきましては別途名簿を会員専用ページにて公開いたしますので，ご覧ください．

また，代議員選挙は無投票となりましたが，会長・副会長の意向調査につきましては，予定通り実施いたします．意思表明者のマニフェストならびに調査票は代議員当選者の名簿とともに，12月8日頃までに公開いたします．意向調査は選挙システムにて実施いたしますので，ご理解とご協力のほど宜しくお願いいたします．

1）代議員全国区無投票当選者：95名（定員101名）

天野一男　安藤寿男　内尾優子　大坪　誠　齋藤　眞
高嶋礼詩　高野　修　中澤　努　野々垣進　松田達生
山口飛鳥　岡田　誠　清川昌一　坂口有人　阿部なつ江
岩井雅夫　小宮　剛　佐々木和彦　西　弘嗣　宮川歩夢
緒方信一　菅沼悠介　大友幸子　松崎賢史　吉田健太
猪股雅美　辻森　樹　山口耕生　石橋　隆　磯崎行雄
野田　篤　内野隆之　香取拓馬　矢部　淳　芦寿一郎
山田泰広　河上哲生　清水以知子　笠間友博　澤木佑介
沢田　輝　下岡和也　矢島道子　氏家恒太郎　折橋裕二
佐久間杏樹　川村紀子　星　博幸　山路　敦　山本和幸
杉田律子　高柳栄子　奈良正和　加藤猛士　亀高正男
竹内真司　田村嘉之　松田博貴　相田和之　沢田　健
冨永紘平　保柳康一　武藤　俊　森田澄人　岡崎啓史
加藤　潔　菊川照英　桑野太輔　志村俊昭　瀬戸大暉
内藤一樹　中村佳博　福地里菜　藤代（安部）祥子
細矢卓志　吉田晶樹　宇野正起　大藤　茂　斎藤誠史
奥田花也　小松原純子　細井　淳　天野敦子　伊規須素子
伊藤　剛　尾上哲治　小俣雅志　神谷奈々　佐藤友彦
澤井みち代　長谷川精　浜橋真理　東野文子　堀　利栄
山﨑由貴子

2）代議員（地方支部区）無投票当選者：75名（定員99名）

北海道支部区：2名（定員5名）
重野聖之　広瀬　亘

東北支部区：3名（定員7名）
澤　燦道　松井浩紀　根本直樹

関東支部区：30名（定員42名）
井上卓彦　棚瀬充史　佐藤大介　廣谷志穂　澤田大毅
木村英人　代永佑輔　山下浩之　米岡佳弥　河尻清和
本田尚正　向山　栄　金丸龍夫　板宮裕実　柴田健一郎
小田原啓　羽田裕貴　原　英俊　池田昌之　佐々木聡史
志村侑亮　鈴木克明　三澤文慶　乾　睦子　入野寛彦
杉田匠平　冨田一夫　外山浩太郎　納谷友規　方違重治

中部支部区：16名（定員16名）
安江健一　長谷部徳子　道林克禎　藤田将人　常盤哲也
森　宏　平内健一　高橋　聡　片岡香子　小林健太
山本博文　竹内　誠　福地龍郎　山田昌樹　大谷具幸
纐纈佑衣

近畿支部区：10名（定員11名）
川勝和哉　松原典孝　栗原行人　小泉奈緒子　里口保文
田中里志　和田穣隆　窪田安打　大串健一　谷　保孝

四国支部区：4名（定員4名）
青矢睦月　齊藤　哲　藤内智士　寺林　優

西日本支部区：10名（定員14名）
山本啓司　Rehman Ur Hafiz　遠藤俊祐　太田泰弘
池上直樹　隅田祥光　佐藤峰南　菅森義晃　冨松由希
山下大輔

3）会長・副会長立候補者に対する意向調査の実施について

法人の代表理事は法律により，理事会において選任することが定められています．実際の選出は，理事として選出されてからのことですが，学会の代表理事となる会長およびその補佐役の副会長を選出するにあたり，会員の皆様の意向を伺うためにこの調査を行います．

意向調査（WEB投票）期間：12月13日（水）10時～
2024年1月10日（水）17時

会長意思表明者：1名
1．山路　敦

副会長意思表明者：2名
1．星　博幸
2．杉田律子

一般社団法人日本地質学会
会長・副会長立候補意思表明者への意向調査について

標記選挙については11月20日に立候補が締め切られ，選挙管理委員会で確認した全国区および地方支部区の代議員立候補者の名簿は，学会HP会員専用ページからご確認下さい．

今回は，全国区は定員未満，各支部区においても定員を超える立候補者がありませんでしたので，選挙規則第６条に基づき全員が当選となります．

ただし，選挙告示の際にご案内のとおり，代議員全国区立候補者のうち，会長・副会長への立候補意思表明者に対する会員の意向調査を実施いたします．法人の代表理事の選出は法律により，理事会において理事の中から選出することが定められています．学会の代表理事となる会長およびその補佐役の副会長を選出するにあたり，会員の意向を伺うために，立候補意思表明者から提出されたマニフェストを公表し，投票による意向調査を行います．

意向調査の方法については＜会長・副会長立候補意思表明者への意向調査＞をご覧ください．意向調査期間は12月13日（水）10時～2024年1月10日（水）17時までとし，選挙システムを用いWEB投票にて実施します．意向調査の結果は学会ホームページ，geo-flash, ニュース誌に掲載いたします．

本意向調査は学会の代表者選出に関わる重要な参考となります．意向調査の公正さを確保するためにも，下記の選挙細則第9条第1項を順守した活動をするようにしてください．

＜選挙細則＞

第9条　選挙管理委員を除く代議員立候補者および正会員は，定められた期間内に限り選挙活動を行うことができる．選挙活動は，公正かつ適切な範囲で行い，倫理綱領に照らし節度あるものでなければならない．

１．買収・饗応・利害誘導などはしないこと．
２．誹謗中傷はしないこと．
３．学会各組織の公式メーリングリストを使用することや，同一文書のメールを多数の人に送り，投票を呼びかけることはしないこと．

2023年11月27日
一般社団法人日本地質学会
選挙管理委員会

＜会長・副会長立候補意思表明者への意向調査＞

＊法人の代表理事の選出は法律により，理事会において理事の中から選出することが定められています．学会の代表理事となる会長およびその補佐役の副会長を選出するにあたり，会員の皆様の意向を伺うためにこの調査を行います．

１．意向調査は，選挙システムを用いWEB投票で行います．
２．各立候補意思表明者のマニフェストを公開しましたのでご覧ください．
３．それぞれの意思表明者に対し，良いと思われる場合は，候補者氏名の右側の選択欄にチェックをつけて下さい（複数選択可）．

会長・副会長立候補意思表明者
会　長　山路 敦

副会長　星 博幸
　　杉田律子

＜意向調査（投票）の期限ならびに開票＞
＊意向調査（投票）期間は，12月13日（水）10時 から2024年1月10日（水）17時までの間です．
＊持参や郵送，その他による投票は受け付けません．
＊開票は2024年1月15日（月）午前10時から学会事務局で行います．開票の立ち会いをご希望のかたは，1月12日（金）までに選挙管理委員会（main@geosociety.jp）にお申し出ください．

意向調査（WEB投票）期間
12月13日（水）10時～2024年1月10日（水）17時

ご協力の程よろしくお願いいたします．

2024 年度一般社団法人日本地質学会
研究奨励金募集

募集締切：2024 年 2 月 29 日（木）必着

若手野外地質研究者向けに研究奨励金を支給します！

日本地質学会では若手育成事業の一環として，野外調査をベースに研究を行う32歳未満の若手会員を対象とした研究奨励金制度を設けています．その第2回目となる2024年度研究奨励金の募集を開始いたします．支給額は最大20万円で採択数は５件程度です．応募期間は2024年1月1日～2月29日で，4月に支給を予定しています．詳細は，下記の奨励金規約・募集 要項・申請様式をご覧下さい（申請書式は，学会ウェブサイトよりダウンロードして下さい）． 少しでも若手研究者の支援に繋がれば幸いです．該当する方は奮ってご応募下さい．

なお，本研究奨励金制度を含む日本地質学会の若手育成事業は，竹内圭史会員からの若手野外地質学者育成のための寄付金を原資として運用しています．

研究奨励金選考委員会
委員長　内野隆之

2024年度一般社団法人日本地質学会研究奨励金募集要項

1. 趣旨

一般社団法人日本地質学会は，学術の発展と社会への貢献を目的として活動しており，その事業の一つとして，今後の活躍が期待される若手研究者へ研究奨励金（以下，奨励金）を支給します．

2. 応募資格

(1) 日本地質学会の正会員で，2024年4月1日時点で32歳未満の者
(2) 野外調査を中核とした研究を行っている者
(3) 同じ研究テーマで他から助成を受けていない（受ける予定がない）者
(4) 学生・大学院生の場合は，指導教員の了解を得ている者

3. 奨励金の支給額と採択件数

(1) 1件：20万円以内
(2) 件数：5件程度

4. 募集期間

2024年1月1日～2024年2月29日

5. 助成期間

1年または2年
（2024年4月～2025年3月31日または2024年4月～2026年3月31日）
※支給は2024年4月下旬を予定しています．
※病気・怪我，出産・育休等，やむを得ない事由で研究を中断せざるを得ない場合，執行理事会に延長願いを提出し承認を受けることで，使用期間を最大2年間延長できます．

6. 対象となる費用

野外調査･研究に直接必要な経費（旅費，宿泊費，消耗品費，調査補助員雇用費，学会参加費，雑費，レンタカー代，有料道路代，通信・運搬費等）
※本奨励金に使用できるかどうかの判断が難しい費用項目については学会事務局までお問い合わせ下さい（学会ウェブサイトのFAQでも幾つかお知らせします）．
※申請者が所属する機関・組織の間接経費（事務経費・一般管理費）は本奨励金の対象外とさせておりますので，必要に応じて所属機関での手続きをお願いします．

7. 応募手続き

日本地質学会のウェブサイト（研究奨励金）より申請様式をダウンロードして下さい．
URL：http://www.geosociety.jp/
申請書は，学会事務局に郵送するかまたはPDFにして電子メールでお送りください．締め切りは2月29日必着です．
［宛先］
〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F
日本地質学会　事務局　e-mail：main@geosociety.jp
※郵送の場合，「奨励金申請書在中」と明記して下さい．また，提出書類は返却致しません．
※提出書類および個人の情報は本奨励金選考目的以外には使用致しません．

8. 選考

研究奨励金選考委員会での厳正な審査の上，対象者を決定致します．結果は４月中旬～下旬に学会ウェブサイトにて公表し，対象者には別途，通知します．なお，選考の内容に関するお問い合わせには応じかねます．

9. 奨励金の中止および返金

次のいずれかに該当する事実が判明した際は，奨励金の返金を求めることがあります．
(1) 同じ研究テーマで他から助成を受けていることが判明した場合
(2) 申請内容に虚偽があった場合
(3) 会費の滞納があった場合
(4) その他，被支給者としてふさわしくないと理事会に判断された場合
※なお，他の助成金の採択などで本奨励金を辞退する場合は，速やかに学会事務局へご連絡下さい，また，既に入金済の場合は，返金をお願いします．
※奨励金の助成期間が２年の場合で，２年目に同テーマで科研費等の他の助成金が採択され，それを受ける場合は，奨励金の２年目分は返金をお願いします．

10. その他

(1) 本奨励金の使用期間が終了した後に，成果報告書および会計報告書をご提出頂きます．大学などの所属機関で会計報告書を作成される場合には，それを流用することも可能です．締め切りは１年期限の場合は2025年5月1日，２年期限の場合は2026年5月1日とします．報告書の様式は学会ウェブサイトに掲載しています．

(2) 領収書については，各自，５年間の保管をお願いします（鉄道・バスについては不要）．

(3) 研究成果の概要について，日本地質学会News誌等への投稿をお願いすることがあります．

11. 問い合わせ先

〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15井桁ビル6F
電話：03-5823-1150，FAX：03-5823-1156
一般社団法人　日本地質学会　事務局
e-mail：main@geosociety.jp

以上

一般社団法人日本地質学会 研究奨励金規則

（目的）

第１条　本規則は，若手野外地質学者育成を目的とした日本地質学会研究奨励金（以下，奨励金という）について定めるものである．

（支給対象）

第２条　奨励金を受けることができるのは，募集年の4月1日において満32才未満でかつ野外調査を中核とする研究を行う正会員とする．ただし，他の助成金制度等により既に助成を受けている，あるいは受ける予定の研究テーマは奨励金の対象外とする．同一会員による複数回の申請は妨げないが，支給を受けた場合，支給が終了した翌年度の申請はできない．

（金額，件数，期間および使途）

第３条　奨励金の支給額は1件20万円以内とし，年5件程度までとする．

２　奨励金の使用期間は，支給日から2年以内とし，申請者が申請段階で設定する．

３　奨励金の使途は，被支給者が実施する野外調査に係る旅費・宿泊費および関連する消耗品費・調査補助員雇用費・雑費等とし，承認された研究テーマに沿ったものに限る．なお，所属機関の間接経費・一般管理費は対象外とする．

（募集）

第４条　奨励金は公募とし，公募要領および申請書様式を日本地質学会News誌，学会ウェブサイト，学会SNS等を通じて会員に告示する．

（申請）

第５条　奨励金を受けようとする者は，所定の様式の申請書を学会へ提出する．申請者が学生の場合は，指導教員による申請書内容の確認を必要とする．

（研究奨励金選考委員会）

第６条　支給対象者の選考は，研究奨励金選考委員会（以下，選考委員会という）が行う．

２　選考委員会は，執行理事会が推薦し理事会が選出する5名程度の委員で構成される．委員長は委員の互選による．

３　選考委員会委員と申請者との関係が深い（親族，共同研究者，研究指導者等）と判断される場合は，一般社団法人日本地質学会利益相反防止規則に基づき，当該委員は該当する件の選考に関与しないこととする．それにより減数した委員の補充は行わない．

（支給対象者の決定）

第７条　理事会は，選考委員会から推薦された支給対象者について，支給の可否および支給額について審議・決定する．

２　学会は，理事会が支給を決定した者に，支給額を含む結果を通知し，支給申請書および誓約書の提出を求める．

（研究奨励金の支給）

第８条　学会は，支給対象者から支給申請書および誓約書が提出された後，決定された金額を所要の手続きを終え次第，速やかに支給する．

（被支給者の義務）

第９条　決定された奨励金を辞退する場合は，被支給者は速やかに学会へ連絡し，既に入金されている場合は返金する．なお，辞退した場合でも，支給決定の翌年度の申請はできない．

２　被支給者は，奨励金の使用期間が終了した後，指定された期日までに会計報告をする．

３　被支給者は，使用期間中に研究を中止せざるを得なくなった場合も含め，受給した奨励金に余剰が発生した場合は，会計報告前に速やかに学会へ返金する．

（使用期間の延長）

第10条　被支給者は，病気・怪我，出産・育休等，やむを得ない事由で研究を中断せざるを得ない場合，執行理事会に延長願いを提出し承認を受けることで，使用期間を最大2年間延長することができる．

（成果報告）

第11条　被支給者は，奨励金の使用期間が終了した後，指定された期日までに研究成果報告書を提出する．

（受給資格の失効）

第12条　被支給者が，同じ研究テーマで他から助成等を受けていることが後に判明した場合や，その他重大な問題を有していると理事会が判断した場合は，被支給者は受給資格を失効し，奨励金の全額を学会に返金しなければならない．

（改廃）

第13条　本規則の改廃は，理事会の議決による．

附則

・この規則は2022年9月10日から施行する．

・2023年12月9日，一部改正．

ご案内

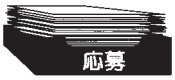
本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します.

原子力総合シンポジウム2023

主催：日本学術会議 総合工学委員会，総合工学委員会原子力安全に関する分科会
後援：日本地質学会ほか
会期：令和6（2024）年1月22日（月）13:00-17:10
会場：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）およびオンライン
参加費：無料
開催趣旨：原子力総合シンポジウムは，我が国の原子力について総合的に議論を行う場であり，日本学術会議と関連学協会が協力し，各界の識者を交えて，中長期的視点から議論が行われてきた．今年度は，我が国を取り巻く社会情勢が刻々と変化する中において，革新炉の研究開発を含む今後の原子力の役割と課題について議論する．
プログラム（案）
開会挨拶　関村直人（日本学術会議連携会員，東京大学教授）
招待講演
テーマ：「社会に貢献する原子力の役割と課題」
司会 森口祐一（日本学術会議第三部会員，国立環境研究所理事）
「日本のエネルギーと次世代革新炉の役割」橘川武郎（国際大学学長）
「原子力が本当に活かすべき教訓とは：科学技術の社会学の知見から」寿楽浩太（東京電機大学教授）
「革新軽水炉に求められる特徴」山本章夫（名古屋大学教授）
司会 岩城智香子（日本学術会議連携会員，東芝エネルギーシステムズ（株）シニアフェロー）
「原子力と多様性」岡田往子（原子力委員）
「事故後12年の原子力規制の歩みと残された課題」-山中伸介（原子力規制委員長）
総合討論
コーディネーター 関村直人
パネリスト シンポジウムの各講演者：新堀雄一（日本原子力学会会長），森口祐一，岩城智香子
閉会挨拶　小山田耕二（日本学術会議連携会員，大阪成蹊大学教授）
問合せ先：一般社団法人日本原子力学会
http://www.aesj.net/

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します.



広島大学大学院先進理工系科学研究科教員の公募

所属（配属）：広島大学学術院（大学院先進理工系科学研究科）
職名・人員：准教授又は助教１名　※採用時の業績審査により，テニュア教員（准教授），テニュアトラック教員（准教授，助教）のいずれかに決定
採用予定年月日：2024年10月1日
任期又は有期雇用契約期間：
７年（テニュアトラック准教授が准教授のテニュアを取得する場合）
５年（テニュアトラック助教が准教授のテニュアを取得する場合）
専門分野：地球惑星科学
担当科目（1）教養教育科目：教養ゼミ（日本語），地球科学 A（日本語）等（2）学部（専門教育科目）：地球惑星科学概説 A・B（日本語），地球惑星システム学実習 A（日本語・英語），地球科学野外巡検 A・B（日本語・英語）等（3）大学院（博士課程前期）：地球惑星分野融合セミナーⅠ・Ⅱ（日本語・英語）等（4）大学院（博士課程後期）：地球惑星分野融合セミナーⅠ・Ⅱ（日本語・英語）等（5）この他，教養教育科目や他の学部・大学院の専門教育科目も担当することがあります.
応募資格：次の要件をすべて満たす者.（1）博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む.）を有すること.（2）博士課程後期の論文指導を担当できること.（3）英語による教育・研究指導ができること.
応募期限：2024年2月29日（木）17:00（日本標準時）（必着）
問い合わせ先：
広島大学大学院先進理工系科学研究科
教授 柴田知之
TEL:082-424-7464
E-mail:tomo33hk@hiroshima-u.ac.jp
応募書類等公募の詳細は，下記を参照してください.
https://www.hiroshima-u.ac.jp/employment/kyoinkobo/senshin

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します.

三菱財団第55回（2024年度）自然科学研究助成公募

総額：約3億3000万円
うち　一般助成 約2億7000万円（1件2000万円以内）
　　若手助成 約6000万円（1件一律400万円）
応募期間：2024年1月5日（金）～2月2日（金）17時（締切厳守）
助成対象：近年の自然科学の進歩はめざましく，各学問分野の研究の深化はもとより分野間の相互作用により，つぎつぎに新たな研究領域が誕生しつつあります．このような状況のもとで本事業では，自然科学のすべての分野にかかわる独創的かつ先駆的研究を支援します．さらに，既成の概念にとらわれず，新しい発想で複数の領域にまたがる研究に対しても大きな期待をよせ，助成します．なお，「一般助成」に加え，若手の研究者の方を対象とした「若手助成」を実施します.
応募の方法：応募要領は，下記当財団ホームページをご覧下さい．助成申込方法は，WEB応募システムのみでの提出によります.
https://www.mitsubishi-zaidan.jp/
問い合わせ先：公益財団法人三菱財団事務局
〒100-0005 東京都千代田区丸の内231
三菱商事ビルディング21階
電話 03-3214-5754，fax 03-3215-7168
E-mail info@mitsubishizaidan.jp

令和6年度苗場山麓ジオパーク学術研究奨励事業助成金募集

苗場山麓ジオパーク地域を対象とした学術調査及び研究を支援し，苗場山麓ジオパークの学術資料の蓄積を図るため，大学院生，研究者等を対象に調査研究費の助成をします.
助成対象研究：
①苗場山麓ジオパークにおける地質学・地形学・考古学・歴史学・地理学・民俗学・植物学・生態学・社会学・観光学などの調査研究
②苗場山麓ジオパークに関連した，地域振興及び地域経済にかかわる調査研究
③その他苗場山麓ジオパーク振興協議会会長が助成対象と認めた調査研究
助成対象者：
①大学院またはそれに相応する教育研究機関において，研究・調査に従事している大学

院生，研究者等（グループによる参加も可能．グループ代表者が助成対象となる大学院生，研究者等であればメンバーとして大学生の参加も可能）
②その他苗場山麓ジオパーク振興協議会長が認めた申請者
③上記の条件のいずれかに該当し，令和７年１月31日までに実績報告書の提出が可能な方

助成金の額：１件あたり上限10万円．（６件程度）．ただし助成対象研究は，１人または１グループあたり１件とします．

助成対象経費：
①調査研究地までの交通費及び津南町内または栄村内での宿泊費（飲食費は対象外）
②調査研究に係る経費（備品(PC 等機材)は対象外）
③その他苗場山麓ジオパーク振興協議会会長が認めた経費

応募締切：令和６年１月31日（水）当日消印有効

申し込み・問い合わせ先：
〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙835番地
苗場山麓ジオパーク振興協議会事務局 学術研究奨励事業助成係（担当：佐藤信之）
TEL 025-765-1600　FAX 025-765-5511
E-mail: naeba36@naeba-geo.org
応募方法等詳細は，HPを参照してください．
https://naeba-geo.org/r06_syourei

2024年度「深田研究助成」

趣旨：公益財団法人深田地質研究所は，「地質学や地球物理学等を基盤とする総合地球科学の研究，及び環境，防災，建設等社会発展に係る科学・技術の研究，ならびにそれらの融合的な研究を進めることにより，複合的な地球システムへの理解を増進し，その研究等の活動を継承する専門家の教育・人材育成及び研究助成活動を行うとともに広範な国際交流を通して，これらの先進的成果を社会に広く普及せしめ，もって社会の持続的な発展に寄与すること」を目的として，「研究事業」「普及事業」「育成事業」「助成・顕彰事業」の4つの事業を掲げており，その事業の1つとして，「複合的地球システム及びその社会とのかかわりに関する研究等への助成ならびに顕彰」を行っています．

助成対象課題：複合的地球システム及びその社会とのかかわりに関する研究等を助成対象とします．ここでいう研究等とは，以下の①から⑥までの各領域のいずれかに該当するもので，野外調査もしくは試験，実験を含む内容であること．
①地質学に関する研究　②応用地質学に関する研究　③地球物理学に関する研究　④地盤工学に関する研究　⑤環境工学に関する研究　⑥防災工学に関する研究

応募者の資格：大学またはこれに相応する教育・研究機関において，研究に従事している若手の個人で，所属教育・研究機関の研究指導者の推薦を受けた大学における助教あるいは大学院博士後期課程在学者，または博士後期課程への進学が決まっている者，またはこれと同等と考えられる若手の研究者．
応募者が共同研究の一員である場合は，研究上の役割分担とその意義を明示して下さい．

採択件数および金額：採択件数：10件程度
②助成金の総額：500万円以内　③1件あたり：最大50万円程度

申請受付期間：2023年12月1日（金）～2024年2月2日（金）消印有効

詳しくは，https://www.fukadaken.or.jp

CALENDAR

2024.1～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2024年

1月　January

★関東支部：県の石―千葉の岩石・鉱物・化石―　講演会
1月14日（日）　13:00～16:00
場所：千葉県立中央博物館講堂（Zoomを使用したハイブリッド形式）
定員：会場100名＋Zoom（オンライン）100名
https://geosociety.jp/outline/content0201.html#2023ken-no-ishi

（後）令和5年度技術者倫理講習会
主催：日本応用地質学
1月16日（火）16:30～18:50
Zoomによりオンライン講習会
参加費：学会員・山口大学理学部地球圏システム科学科支援企業社員 1,000円，非学会員 3,000円
CPD：2.0CPDH
https://www.jseg.or.jp/index.html

（後）原子力総合シンポジウム2023
主催：日本学術会議総合工学委員会，総合工学委員会原子力安全に関する分科会
1月22日（月）13:00～17:10
会場：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）・オンライン
参加無料

3月　March

★西日本支部令和5年度総会・第174回例会
3月2日（土）
会場：薩摩川内市川内駅コンベンションセンター SSプラザせんだい
参加・講演申込締切：2月1日（木）
講演要旨提出締切：2月22日（木）
https://geosociety.jp/outline/content0025.html

9月　September

★日本地質学会第131年学術大会（2024山形）
9月8日（日）～10日（火）
会場：山形大学小白川キャンパス

（協）地盤技術フォーラム2024
9月18日（水）～20日（金）
東京ビックサイト・東ホール
http://www.sgrte.jp

11月　November

国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2024年総会及び第21回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム
11月18日～22日
場所・会場：マレーシア,クチンのWater Front Hotel
参加登録及び発表要旨締切：2024年3月31日
参加登録及び発表要旨提出先：iagr2024@curtin.edu.my
問合せ：Prof. Nagarajan Ramasamy, Curtin University, Malaysia
E-mail: nagarajan@curtin.edu.my

ユネスコおよび国際地質科学連合による国際惑星地球年（2007 - 2009 年）を
契機に始められた、一般社団法人日本地質学会主催の「惑星地球フォトコンテスト」。
私たちの惑星「地球」をテーマにした写真コンテストの
最高峰の入賞作品を展示します。

母なる大地、生命の惑星・地球の知られざる一面を、
見つめてみませんか？

2023 **12/2** Sat. ▶ 2024 **3/3** Sun.

蒲郡市 生命の海科学館　３Ｆ科学ひろば

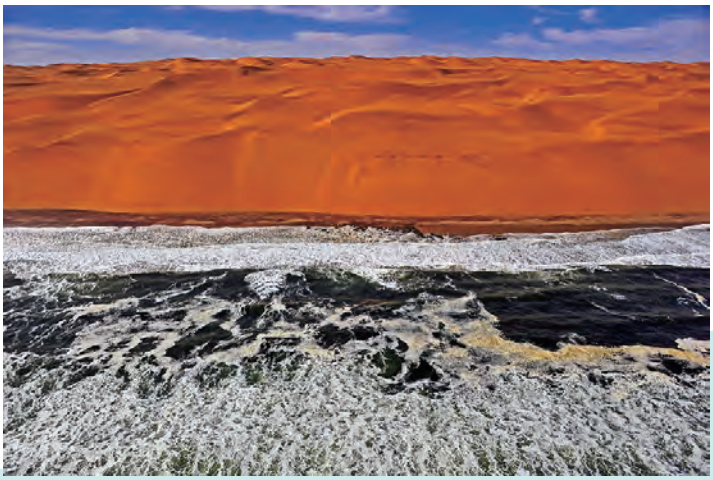
入場無料

日本地質学会・生命の海科学館　共催企画展

第14回 惑星地球フォトコンテスト入賞作品展

第 14 回惑星地球フォトコンテスト　最優秀賞「古代の双六」朝永武志さん

第 14 回惑星地球フォトコンテスト　優秀賞「Lingshed Village」佐藤竜治さん



第 14 回惑星地球フォトコンテスト　優秀賞「大西洋と砂漠」近藤洋さん

地球46億年，あなたにつながるストーリー

蒲郡市生命の海科学館

がまごおりしいのちのうみかがくかん

〒443-0034 愛知県蒲郡市港町17番17号

お問い合わせ　0533-66-1717

www.city.gamagori.lg.jp/site/kagakukan/

開館時間　9：00～17：00（入館は 16:30 まで）

休館日　毎週火曜日
年末年始(12/29～1/3)
＊火曜日が祝日の場合は翌平日休館
＊学校長期休暇期間（夏休等）は毎日開館

観覧料　高校生以上　500 円（300 円）
小・中学生　200 円（100 円）
＊( )内は 30 名以上の団体料金
＊蒲郡市在住者は市民利用証提示で無料

蒲郡市生命の海科学館ホームページ

紹　介

コーウェン地球生命史 第6版

マイケル　ベントン 編
ロバート　ジェンキンズ，
久保　泰 監訳

株式会社 東京化学同人　2023年7月24日発行，コーウェン地球生命史　第６版，ISBN：978-4-8079-2048-8，304ページ，価格 5,390円（本体4,900円+税）

生物間の競争，激変する環境，移動する大陸…本書の帯に書かれているように，ダイナミックな生命史の本質がこの一冊に凝縮されている．本書「コーウェン地球生命史　第６版」は，米国カリフォルニア大学デービス校で長年教鞭をとられたRichard Cowen（1940-2020）の教科書“History of Life”を，英国ブリストル大学のチームが引き継いで拡充した“Cowen's History of Life, 6th edition”を日本語に翻訳したものである．その経緯は「まえがき」に詳しく述べられているが，Michael Bentonが中心となって改訂することで新たな内容も付け加えられた．特に，「中生代の海洋変革」や「白亜紀の陸上革命」，「海洋と気候の進化」の３章が加わることで，脊椎動物の進化に焦点を当てながらも，地質学や生態学からみた地球環境の変化と生態系の関係についても充実されている．そのため，英題“History of Life”を“生命史”ではなく，“地球生命史”と訳されたのも理解できる．

そもそも1990年の初版発行以降，中国のカンブリア紀の生物や羽毛恐竜など様々な化石が新たに発見され，生命史に新しいページがどんどん追加されてきている．さらに，分岐分析や分子系統学の進展，放射年代や天文年代層序といった研究手法の革新によって，初版発行当時には考えられなかったような高い精度で「年代目盛り入りの進化系統樹」が描けるようになった．地球環境史の研究手法も，地質学者や地球化学者，天文学者，生態系学者などにより学際的な研究が進められ，様々な証拠からいくつもの仮説が提唱されては棄却され，その中のいくつかは受け入れられてきた．本書では，そうした新説もたくさん取り入れられている．

ただ，本書は化石記録そのものなどの“事実”と異なり，解釈や仮説は一つの意見に過ぎないことも強調されている．“Question Authority！（権威を疑え！）”といった1960年代によく使われたスローガンも紹介され，「ある仮説についての賛成と反対の意見の両方を盛り込むように努めた」とのことである．ただし，「文章量の制限や執筆者の考えによって一方の意見のみが書かれていることも多い．この本への不満や，この教科書以上に豊富な知識があるならば，それをあなたの学生と共有し，なぜこの本の説明が偏っていたり，間違っているのかをぜひ説明してあげてほしい．そうすることで，学生は科学者の間で交わされる“科学的議論”に触れることができる」と説明されている．以下では，本書について，“疑い”ながら書評させて頂く．

本書は23章からなり，1章から5章は生命の起源からカンブリア爆発に至る初期進化，7章から16章は古生代と中生代の脊椎動物の進化，18章から最終章は哺乳類の進化を軸に，大枠は時系列に取り上げられている．これらの間には，6章“変化する地球と生命 Changing Life in a Changing World”と，6th editionから新たに加わった17章“変化する海と気候 Changing Oceans and Climates”が挿入され，現在の地球環境や生態系と比較して，地球史スケールでの環境と生命の進化について概説されている．このような構成のため，時間軸を行ったり来たりしながら，地球生命史を楽しめるようになっている．17章では，18章以降は主役が哺乳類になることもあり，新生代にフォーカスを当てつつも，スノーボールアースから現在までの古気候とそのプロキシ（代替指標）について説明されている．プロキシの説明はもっと最初の方にあっても良いと思ったが，そもそも本書には温度や大気CO_2濃度の変動史についての説明が少ない気もする．生物の進化や絶滅を考える上でも，環境パラメータについて，もう少し定量的な記述が欲しい．

第6版で新しく付け加わった11章“中生代の海洋変革”では，ブリストル大の著者らの最新の成果が各所に散りばめられていて，読み応えがある．ただし，最新の研究ゆえに議論の分かれる部分もあるので，最初に紹介されたように，「権威を疑うこと」も必要であろう．中生代の海洋変革についても，Vermeijが1970年代に指摘されていたジュラ紀以降ではなく，三畳紀にさかのぼり，ペルム紀末の大量絶滅による生態系への甚大な影響が引き金になったという新たな知見を加えている．

日本の地質記録として，ペルム紀末大量絶滅前後，数百万年も続いたチャートギャップが紹介されているが，ここでは近年の成果は反映されていなかった．チャートギャップは，付加体に広く見られる海洋プレート層序の遠洋深海層において，通常の放散虫からなるチャートではなく，放散虫がほとんどない黒色頁岩や珪質泥岩が堆積することである．チャートギャップは，陸域の石炭ギャップや浅海域のコーラルギャップを合わせて，陸―浅海―深海の生物起源堆積岩の欠如として知られ，大量絶滅に伴う生物生産の低下が要因と説明されていた．しかし，この10年でコノドント化石や炭素同位体比層序から，チャートギャップ期間の堆積速度が通常の放散虫チャートよりも数倍高かったことが示されている．すなわち，チャートギャップは生物生産の低下ではなく，おそらく植生崩壊や乾燥域の拡大によって，主に風成塵などからなる砕屑物の堆積速度が速くなり，放散虫が希釈されたことを意味する．日本の地質学の貢献を，もっと広く知らしめる必要があるかも知れない．

日本語版の改善点もたくさんある．各章の冒頭にクエスチョンを設けることで，読者自身が謎解きをしながら読み進められるよう工夫されている．原書では各章の冒頭に要約があるが，問いかけ方式は近年日本にも定着しつつあるアクティブラーニングや反転授業を行う題材としても良い．内容は地質学から環境化学，生物学と多岐に渡るが，該当する章だけ“つまみ食い”しても十分理解できる構成である．ただし，重要な基礎知識は漏らさぬよう，“古生物学を学ぶための基礎知識”がコラムに記述され，目次でもハイライトされている．

ちなみに，本書の表紙画も日本語版限定である．英語版は中生代の海棲爬虫類と恐竜がメインであるが，本書の表紙画は「生命史のらせん階段」という一枚の絵で生命史の大きな流れを体現されている．最初の生命からストロマトライト，カンブリア紀のアノマロカリス，デボン紀のダンクルオステウスやゴニアタイト，イクチオステガ，石炭紀ーペルム紀のメガネウラ，アーケオプテリス，白亜紀のティラノサウルス，そして天体衝突までを表紙として現代との断絶を表現し，つづく背表紙に鳥と被子植物，裏表紙は新生代のクジラの祖先アンブロケトゥス，メガファウナの代表としてマンモスとメガテリウム，そして化石人類アルディピテクス，ネアンデルタール人から我々ホモ・サピエンスといった地球生命史のキープレイヤーを螺旋状に配置し，書店でも目を引くに違いない．

日本語版の図版データ，および参考文献と引用文献はウェブサイト（https://www.tkd-pbl.com/book/b10031738.html ）から無料ダウンロードでき，とても便利である．早速，私も授業で使わせて頂いた．同サイトにある，監訳者お二人のYouTube動画も必見だ．私の拙い書評よりも，もっと本書の魅力が伝わると思われる．

（池田昌之）

学協会・研究会報告

国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2023年総会及び第20回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム 参加報告

吉田　勝（ゴンドワナ地質環境研究所）
角替敏昭（筑波大学生命環境系）

表題の集会が10月7日～9日に新潟市で，付属野外巡検が10日～11日に糸魚川市で行なわれた．総会及びシンポジウムの口頭発表は新潟大学五十嵐キャンパスの図書館の大講堂で分科会無し，ポスター発表はメインロビーで行われた．参加登録者は勤務地別15カ国140人前後で（写真），国別では多い順に日本（54人），中国（45），インド（８），韓国（６），カナダ（４），スリランカ（３），英国（３），ラオス（２），ポーランド（２），イタリー，ロシア，台湾，米国，（各１）であった．所属国籍では他にオーストラリア，オランダ，コンゴ民主共和国，ナイジェリア，パキスタン，ルワンダなどがあった．シンポジウムでは口頭43題（基調講演4題を含む）とポスター54題の発表があり，キャンセルは数題であった．以下に日を追って報告する．

10月7日，多数の会議参加者が宿泊している市内中心部のANAクラウンプラザホテルで17時から参加登録，18時から20時頃まではアイスブレーカーで大いに賑わった．

10月8日，朝8時にホテルからバス２台で新潟大学五十嵐キャンパスへ．会場の図書館大講堂では15分間の開会式で学部長，学長，実行委員会委員長，IAGR事務局長らの挨拶があった．引き続いて第1基調講演「Indian Tsunami Early Warning System (ITEWS)」（H.K. Gupta）30分，その後は一般の口頭発表18題が，ポスターコアタイム1時間，ランチブレークと2回のティーブレークを挟んで各15分間ずつ行われた．

17時にシンポジウムが終わり，貸切バスでホテルに移って夕食会，IAGR総会・懇親会とIAGR評議委員会があった．総会ではGondwana Research Best Paper Award授賞式があり，「Long-term Phanerozoic global mean sea level: insights from strontium isotope variations and estimates of continental glaciation」(Van der Meer D.G., Scotese Cr., Mills B.J., Stuijs A, and Van der Weg R.M., Gondwana Research 111, 103-121)と「Linking energy transitions, energy consumption, and environmental sustainability in OECD countries」(Khan I., Zakari A., Ahmad M., Irfan M. and Hou F., Gondwana Research 103, 445-457）の2論文が受賞し，著者らに賞状とメダルが贈呈された．

左からM. Santosh氏，筆者とH.K.Gupta氏

10月9日　朝9時から基調講演3題（1）Neoproterozoic tectonic evolution and proto-basin of the Yangtze Block, China (Yunpeng Don), (2) India and South China in the Tonian: New constraints from the Harohalli Alkaline province (Joseph G. Meert)と (3) Intra-plate oceanic island basalts: from formation to accretion (Inna Safonova) が各30分間あり，引き続いて一般講演20題がポスターコアタイム等を挟んで発表された．

17時には簡単な閉会式とその中でのStudent Best Poster Award受賞式があり，第1位「Petrological and geochemical variation of charnockitic rocks in the Wanni Complex, Sri Lanka」(Pahan Abewardana, Dharmapriya P.L. and Malaviarachchi S.P.K.)，　第2位「Paleozoic high pressure schists in the Omi area, Itoigawa city, Niigata」(Yoshida, T. and Satish-Kumar M.)，　第3位「Ultramafic-hosted magnesite deposits of Salem Mafic-ultramafic complex, Southern India: Spectral and stable Strontium isotopic insights」(Haritha A., Rajesh V.J. and Satish-Kumar M.）が賞状と賞品を贈呈された．また，次回のIAGR総会・シンポジウムは2024年11月下旬にマレーシアのクチンで行われると発表された．

以下にはシンポジウム全体や講演内容について筆者らの感想を記す．

<吉田>　久しぶりの対面の集会であった．第1基調講演者のインド地質学会長H.K.Gupta氏は37年前筆者を初めてインドに招聘したケララ州地球科学研究センターの所長であった．IAGR事務局長のM. Santosh氏も当時のセンター職員で，筆者とはその時以来の付合いであり，日本で3人そろったのは感激であった（写真）．シンポジウムでは中国人研究者の参加数と発表数が多く，またその発表内容には大陸テクトニクスや年代学に

高い程度のものが少なくないと感じられた．興味を引いたのは2日目のJoseph G. Meertの基調講演で，2000年代の初め頃に彼が北西インドブロックの古地磁気データから主張していた原生代東ゴンドワナからのインド孤立説を，新たに南インドクラトン中のアルカリ火成岩脈の古地磁気データで修正・補強した発表である．しかしインド孤立説に対してはYoshida & Upreti (2006, 2011)が，原岩がネオ原生代である高ヒマラヤ片麻岩類の砕屑性ジルコン年代分布から原ヒマラヤ帯は南極・オーストラリアを含む環東南極変動帯から砕屑物の供給を受けていたと指摘しているが，それについての言及はなく，その点からはインド孤立説は多数派になりつつあるが，確定したとは言いがたいのではないかと思われた．

2日目の一般講演，Lijun Wanによる「Yangtze and Cathaysia blocks of South China: Their separate positions in Gondwana until early Paleozoic juxtaposition」はGeology 51巻（2023年）に発表された論文で，従来ゴンドワナ北東縁辺に位置していたと一般に考えられていた南中国クラトンが一体でなく，地質構成，とりわけ詳しい岩相層序と砕屑性ジルコンの年代分布などからYangtze Blockはインド北西縁に，Cathaysia Blockはオーストラリア北西縁付近に分かれて位置していたと論じている．Yoshida & Upreti(2022) で考察したヒマラヤの初期古生代変動帯を始めとする周ゴンドワナ変動帯の構成に資するところがある内容だった．

＜角替＞　20回目の区切りの大会である今回のシンポジウムは，IAGRの発祥国である日本での開催となった．過去には高知，福岡，つくばで開催されており，新潟が国内で４カ所目の開催地である．COVIDの影響により，2020年のシンポジウム（ロシアで開催する予定であった）はキャンセル，過去２回の大会は中国国内（青島と成都）での実施となっていた．したがって，私としても４年ぶりの参加となり，久しぶりにIAGR関係者やゴンドワナ研究者との有意義な議論ができたことは，大きな収穫であった．発表内容としては，例年通り中国人研究者によるもが多かったが，特に南中国地塊の年代・岩石学およびテクトニクスに関する新たなデータが，カナダ・Waterloo大学のLin Shoufa教授やWang Lijun博士によって提示された．南中国地塊は南部北上や阿武隈の形成史と密接に関係していると考えられているため，今後両者のさらなる対比が必要となるだろう．最後に，新潟大学のSatish-Kumar教授をはじめとするLOCのメンバーには，学会の準備および期間中において多大なご尽力をいただいた．ここで御礼申し上げます．

～卒業記念やイベントなどのグッズにも最適！　　好評発売中～

ご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートは，名入れサービスも承ります（有料）。ビニールコーティングの表紙は，水や摩擦・衝撃にも強く野外調査に最適です。ぜひご活用ください。

サイズ：12×19cm.
中：レインガード紙使用．2mm 方眼.
カバー：ハードカバー，ビニールコティング，金箔押し.
色：ラセットブラウン（小豆色）

定価 600円（会員頒価 500円）

学会オリジナルフィールドノート

ご注文・お問い合わせは，学会事務局まで
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156　e-mail: main@geosociety.jp

南紀熊野ジオパークセンターの外観

南紀熊野ジオパークの魅力

和歌山県立南紀熊野ジオパークセンター　**本郷宙軌・福村成哉・後呂好俊**

南紀熊野ジオパークの概要と地質・地形の特徴

南紀熊野ジオパークは，紀伊半島の南部に位置する和歌山県新宮市と白浜町，上富田町，すさみ町，那智勝浦町，太地町，古座川町，北山村，串本町，奈良県十津川村（一部）の1市7町2村からなり，東西，南北ともに約60kmで，総面積は1,374km^{2}です．「南紀」という呼び名は，昔存在した「南海道紀伊国」の略であるとされ，昭和の時代に南紀州という意味を持つようになりました．また「熊野」も紀伊半島南部に存在した国の名であり，この地域を指す言葉として広く世に知られています．そこで，紀伊半島南部の暖かい風土と，長い伝統を持つこの地域を表すのにふさわしい言葉として南紀と熊野を用いてジオパーク名としました．

南紀熊野ジオパークはプレートの沈み込み帯で形成された大地です．この地域の最も重要な地質地形学的特徴は，「付加体」と「前弧海盆堆積体」，「火成岩体」の3つの地質体が，およそ7000万年前から長い時間をかけてプレートの移動と沈み込みの継続によって形成し，その後，隆起することで風化浸食を経て多様な地形が形成されてきたことです（図1）．急峻な山地を形成した隆起は，熊野川や北山川などによる峡谷の形成にも影響を及ぼしてきました．また，海岸付近では海岸段丘や離水ベンチなど特徴的な地形も発達しています．

南紀熊野ジオパークでは，エリア内に「橋杭岩」や「古座川の一枚岩」など107か所の見どころを指定しています．橋杭岩は長さ約850m，幅約15mほどのほぼ垂直の流紋岩の岩脈で，およそ1500万年前，熊野層群の泥岩層に割れ目をつくりながらマグマが貫入してできたものです．紀伊半島の隆起に伴い熊野層群の泥岩層は浸食されましたが，火成岩は硬いため，取り残されました．その結果，橋脚状の岩塔が高くそそり立つようになっています．古座川の一枚岩は，幅約500m，高さ約100mにおよぶ岸壁で，橋杭岩とほぼ同時期の約1500万年前に形成されました．この一枚岩は，東西23km，南北40kmの範囲に形成されたカルデラの陥没に伴い噴出した火砕流の一部が，地上への通路（火道）で固結したものです．当時のカルデラ噴火は世界でも最大規模のものであったと考えられています．他の見どころはHP（https://nankikumanogeo.jp/）等で紹介しています．

南紀熊野ジオパークでは災害の記録を後世に伝える活動も行っています．この地域は，南海トラフで沈み込むプレートの影響で海溝型巨大地震と津波の被害を繰り返し受け続けてきました．また，太平洋に面したこの地域は台風の接近・上陸が多く，暴風雨と洪水の被害も多く発生しています．このように自然災害の影響を繰り返し受けてきていますが，それに立ち向かう知恵を後世に残すため，記念物や標柱の建立などが行われてきました．例えば，白浜町から串本町にかけての沿岸部では，津波の被害状況などを示す標柱の数は30箇所にのぼります．また，上富田町や古座川町には洪水時に破壊されないように設計された潜水橋（図2）がかけられており，地域の人々が洪水とうまく付き合ってきたことが窺えます．

自然遺産・文化遺産・無形遺産

南紀熊野ジオパークの特徴的な大地の上に多種多様な動植物が生息することで豊かな自然遺産が作られています．第四紀における紀伊半島の隆起に伴って形成された急峻な山地では，年間4000mmを超える雨量があり，この豊富な水によって森林が形成されることで豊かな生態系がつくられています．また，海域では，暖流の黒潮の影響によって高緯度でありながらサンゴ群集を代表に多様な海洋生物が生息しています．特徴的な海洋生物によって，串本町の沿岸の一部は「ラムサール条約湿地」に登録されています．このように山地から河川，海岸まで変化に富む地形を有し，豊かな生態系をもつことから，ジオパークエリアの一部は「吉野熊野国立公園」にも指定されています．

南紀熊野ジオパークの大地はこの地域の文化の形成にも大きく関係しています．大地に残されたダイナミックな地質と地形は，古くから信仰の対象となり，神々が鎮まる地域として多くの人々に崇拝されてきました．そのため，山岳修行の場となった急峻な山地には道ができ，その後，参詣道として多くの人が熊野三山を目指し，独特の文化が形成されました．その文化的な価値は世界的に評価され，南紀熊野ジオパークのエリアの一部は世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」となっています．例えば，那智勝浦町にある熊野那智大社の那智大滝は，熊野カルデラの形成に伴った火成岩で出来ており，飛瀧権現として神格化されています．そして，この那智大滝では，「那智の田楽（ユネスコ無形文化遺産）」や「那智の扇祭り（国指定重要無形民俗文化財）」が奉納されています．また，新宮市にある神倉神社の御神体であるゴトビキ岩も火成岩で形成されており，ここでは1400年以上の歴史を持つ「新宮の御燈祭り（国指定重要無形民俗文化財）」が行われています．さらに，日本で唯一飛び地の村である北山村では，急峻な山地にある豊かな森林は良質な木材となり，林業が栄えてきました．現在のように陸路が発達していない時代は，河川を使い筏によって河口まで木材を運ぶ必要がありました．北山川の峡谷は特に急流のため，筏を巧みに操船する技術は「北山川の筏流し技術」として和歌山県指定無形民俗文化財に

info

和歌山県立南紀熊野ジオパークセンター
〒649-3502
和歌山県東牟婁郡串本町潮岬2838-3
TEL：0735-67-7100
https://nankikumanogeo.jp/geopark_center/

図1（左）付加体からなるフェニックス褶曲　（右）前弧海盆堆積体からなる千畳敷　（中）火成岩体からなる橋杭岩

図2　上富田町を流れる富田川の潜水橋

図3　北山川の観光筏下り

指定され，現在では観光筏下りとしてその技術が継承されています（図3）．

南紀熊野ジオパークセンター

南紀熊野ジオパークセンター（以下，センター）は2019年7月に和歌山県が串本町潮岬に開設した南紀熊野ジオパークの拠点施設です．このセンターは，プロジェクションマッピングによる迫力ある映像や，大地の動きや成り立ちを再現する体験装置，河川の実験など，ジオパークの魅力を分かりやすく学び，楽しむことのできる観光学習施設です．また，展示等については英語や中国語にも対応し，世界に向けて南紀熊野の魅力を発信しています．センターでは，常駐するジオパークガイドが来館者の要望に合わせて対話形式で説明を行っており，ジオパークの魅力や地域の旬な情報を伝えています．

センターの展示では「大地の成り立ち」や「大地と南紀熊野の自然・歴史文化とのつながり」，「防災」などについて8つのテーマに分けて紹介しています．展示では解説パネルだけではなく，触ったり体験したりできる機器を設置し，子どもでも楽しめるものになっています．例えば，マグネットが仕込まれたプレート模型を貼り付ける地球プレートパズル（図4）や南紀熊野ジオパーク内で見つかった化石の発掘が体験できるゲーム，実物の木材に触ってその匂いや重さを感じて利用方法を学べる展示などがあります．また，センターには河川模型（エムリバー）があります．この模型は，緩く傾斜させた水槽（約2m×1m）に砂礫に見立てた大きさの異なるプラスチック粒を入れて，上流から水を流すことで，浸食・運搬・堆積作用により河川が変化していく様子を再現することができ，ジオパークガイドが実演しています．さらに，センターには地域の魅力を紹介するブースや他地域のジオパークと国立公園を紹介する展示もあり，ジオパークセンターを出発地として訪問者を野外へと誘導する役割を担っています．

センター内には，南紀熊野ジオパーク推進協議会（以下，協議会）の事務局があり，南紀熊野ジオパークガイドの会やジオパーク活動の推進を図ることを目的に民間事業者等との連携を進めています．

南紀熊野ジオパークの魅力発信

協議会ではホームページやSNS，地域の新聞，観光雑誌などにおいて，南紀熊野ジオパークの成り立ちや歴史文化との関わりや，講演会などのイベント情報を発信しています．また，エリア内の見どころを巡る手助けとして各市町村に総合案内板を設置し，見学しやすい主要なサイトに解説案内標識を46箇所設置し，イラストを用いて地質や地形を視覚的に理解できる工夫をしてジオパークの魅力を伝えています．また，パンフレット「知るたびいい旅 南紀熊野ジオパーク」を作成して専門的な知識がない人でもジオパークに関心が持てるように，モデルコースを設定し，体験スポットや地元の飲食店などを紹介しています．また，英語版のパンフレットも作成して見どころやアクティビティ，歴史文化などを紹介しています．

協議会では2018年から毎年，中学生向けの副読本教材「大地に育まれた熊野の自然と文化に出会う」を和歌山県内全ての中学1年生に配布しています．また，教材の活用コンテンツとして指導例や写真，イラストなどもホームページで公開しています．2021年には中高生を対象に自立的な思考力を備えた人材育成を目標とした「南紀熊野ジオパーク探偵団」が発足しました．この探偵団は，南紀熊野ジオパークをフィールドとして未来を考え，地元が抱える問題の解決に向けた探究的な教育を行う活動組織です．

図4（左）センターのエントランス　（右）地球プレートパズル

ジオパークガイド

南紀熊野ジオパークでは，東西南北の４つのエリアを設けて，ジオパークガイドが活動しています．ガイドになるには協議会が実施する養成講座の受講と試験に合格し，「南紀熊野ジオパークガイドの会」へ加入登録することが必要です．現在99名（2023年11月末時点）が登録されており，ジオツアーの企画と実施，ジオパークセンターでの来館者への説明，学校等への出前授業などの教育普及活動にも携わっています．ガイドの会ではセミナーやトレーニング，自主的なサークル，ワーキンググループでの研修や活動を実施して各々のスキルアップを図っています．

最近，ガイドの会が特に注力しているのは，コロナ禍を乗り越えて復活の兆しが見えるインバウンドへの取組です．エリア内には，世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成資産があり，世界各国から多くの人々が訪れており，訪問者数はコロナ前の状況に戻りつつあります．今後，ますます訪問者は増加することが予想されていますので，ガイドの会では，大地の成り立ちと構成資産との関わりや暮らし・文化を紹介するなど，ジオパーク的視点を通して地域の魅力を感じてもらうために取り組むワーキンググループを結成して活動を始めています．このグループには，全国通訳案内士や高野・熊野特区通訳案内士，外国人の方も在籍しており，各々のスキルを活かして活動しています．第1弾としてバス会社と組んでエリア内の見どころを回るインバウンドツアーのガイドを行います．また，グループでは外国語で案内できるガイドの養成にも力を入れています．

エリア内には国立公園や世界遺産，ラムサール条約登録湿地，国内初の民間ロケット発射場などがあるため，これらの地域の資源を有効に関連づけ，充実したガイドができるようにガイド相互で情報共有やスキルアップを図っています．また，全国各地のジオパークガイドの方々と繋がることで，各地域の先進的な活動や抱える課題などの情報交換をおこない，ガイド活動のあり方や地域活性化に取り組んでいます．

調査研究サポート

南紀熊野ジオパークではエリア内で行われる幅広い分野の調査・研究活動に対して1件あたり10万円の助成を行っています．さらに，研究が円滑に進行するように試料採取にかかる許可申請や現地調査に協力しています．南紀熊野ジオパーク内で調査を予定されている方は，ご一報いただければ幸いです．

南紀熊野ジオパークを訪れると，過去から現在まで，陸から海まで，変動帯の大地の形成を学ぶことができるだけではなく，地震や津波，台風などの様々な自然災害に学んだ人々の知恵とその大地の中で育まれた生態系，祭祀や食などの有形無形の遺産に触れることができます．皆様のお越しをお待ちしております．

巡検・ワークショップ

Hコース
ワークショップ1：堆積学の水理実験・理論講習会

9月16日（土）実施
講師：成瀬 元
参加者：岩本正人，岡田浩二，菊川照英，菊地一輝，北沢俊幸，小島卯々，嶋本利彦，高橋康明，髙畑祐美，田村友識，永山和久，吉村成公，渡辺正巳

【案内者の報告】

本ワークショップでは，堆積地質学における実験の重要性と楽しみを参加者に感じていただくため，沖積河川に起こる現象を理解する水路・数値実験を実施しました．午前中の水路実験では沖積河川の水理条件を行い，土砂流量を変化させることで河床の傾きが変化すること，粒径を変えることでベッドフォームが出現すること，などを体験していただきました．また，午後の数値実験では午前中の実験を再現するモデルやベッドフォームの形成プロセスを観察するモデルのプログラミングを行いました．ワークショップ中には，水路やモデル実験で起こった現象にとどまらない多様な内容で活発な議論が行われ，主催者自身にとっても得るものの大きい催しとなりました．

（**成瀬　元**：京都大・理）

【参加者の感想】

当方は本年度より博物館に勤務することとなり，展示や講座の一つに水路実験の様な堆積学に関する実験を取り入れたいと考え本コースを受講しました．コース前半では水路を用いた沖積河川断面の地形変化を観察する実験を，後半には数値計算モデルを用いた河川地形の変化の再現及びベッドフォームの形成実験を実施・説明いただきました．水路実験では水路に砂を入れ循環させ形成される地形の観察，また砂の増量や粒径の異なる砂の追加等の条件を変えた際の地形的変化と流速やせん断応力の変化を測定・計算し，視覚的・数値的に河川地形に変化を及ぼす要因を実感することができました．後半の数値実験では，プログラミング言語Pythonの実行環境を構築できるAnacondaを用いました．Anacondaで簡単な図しか作成したことのない初心者の当方であっても，的確なご指導と事前にご準備いただいた資料で数値実験を体験することができました．本コースをご準備いただいた成瀬先生及び京都大学の学生様方にはこの場を借りて感謝申し上げます．

（**菊川照英**：千葉県立博物館）

図1．水路実験の様子．ベッドフォーム（サイクリックステップ）が水路内に形成されている．

図2．水路実験により形成されたデルタ（三角州）．下流端に堰を設置した結果としてできたダム内をデルタが前進している．

地質學雑誌

地質学雑誌は，2022年（128巻）からは完全電子化となりました．会員の皆様に，公開されている新しい論文をご紹介します．ぜひJ-STAGE上で本論文を閲覧してください．QRコードからも各原稿にアクセスして頂けます．
https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geosoc/-char/ja

新しい論文が公開されています

論説　**下北半島中部で掘削されたSN-010深部ボーリングコア中の中新統泊火山岩類の岩石記載と層序対比**
相澤正隆, 稲葉 充, 岡村 聡, 新城竜一
https://doi.org/10.5575/geosoc.2023.0025
青森県下北半島東部に分布する泊火山岩類は，東北日本弧の中期中新世の火山フロントを構成していた火山岩層である．火山活動は4つのステージに分けられており，第Iステージの地質体は金津山安山岩，第IIステージの地質体は下部が月山安山岩，上部が泊玄武岩，第IIIステージの地質体は鷹架安山岩，第IV ステージの地質体は吹越安山岩と呼ばれる．このうち，泊玄武岩はかんらん石に富みクロムスピネルも含むことで特徴づけられる．2014～2016年にかけて泊層の西隣でボーリング調査が行われ，得られたコアの308m以深に泊火山岩類が産出した．本研究による岩石学的検討により，コアの深度約1003m前後の溶岩が泊玄武岩に対比された．全岩化学組成は浅部コア試料と地表の泊層で類似する一方，深部コア試料はより高いLIL/HFS元素比を有することから，本層の活動中にスラブ由来流体の組成が変化した可能性が示唆される．

総説　**津波地球化学：現在の知見と今後の展望**
篠崎鉄哉
https://doi.org/10.5575/geosoc.2023.0026
本総説では，津波堆積物に対し地球化学的手法を用いた研究をまとめ，津波堆積物の地球化学的特徴・挙動について整理し，今後の課題と併せて記述した．地球化学的手法が津波堆積物そのものではなく，海水流入の痕跡もしくは環境変化を見ているため，津波堆積物研究の中でも（1）地層中の津波堆積物の識別や（2）津波浸水域の高精度復元への貢献が期待されている．近年発生した巨大津波以降，津波堆積物の地球化学的特徴について多くの知見が報告されてきており，化学プロキシごとの挙動が徐々に明らかになってきた．一方，依然としてプロキシごとの保存ポテンシャルや堆積環境ごとの挙動に関しては十分な知見が得られているとは言い難い．今後は，現世・古津波堆積物の化学的特徴の把握に加え，新たなプロキシ・解析手段を適用が求められる．そのためには様々な研究分野との協働が必要不可欠であり，分野横断型研究を進めていくことが求められる．

☆西日本支部　お知らせ

西日本支部令和5年度総会・第174回例会の案内
【共催：薩摩川内市役所】

開催日：2024年3月2日（土）
会場：薩摩川内市川内駅コンベンションセンター SSプラザせんだい３階会議室
講演は口頭・ポスター発表．懇親会は開催しません．
例会参加費：会員（一般）1,000円/人，会員（学生）500円/人
非会員（一般）2,000円/人，非会員（学生）1,000円/人
講演条件：日本地質学会会員であること．ただし、学生・院生に限り共同講演者に日本地質学会の会員がいれば，筆頭講演者が非会員でも構いません．

参加・講演申込（2月1日締切）
・参加・講演申込：次の情報を下記のオンラインフォームにご記入ください．（1）連絡先（氏名・所属・e-mail・電話）（2）登録区分（会員（一般・学生）・非会員（一般・学生））（3）講演希望（口頭・ポスターを明記）
・https://forms.gle/dWW97VSdxLwa3DLP8
・口頭発表は15分，ポスターのサイズは，幅90cm以下，高さ170cm以下．
・学生発表者には口頭・ポスターともに「優秀発表賞」を設けております．
・申込締切：2月1日（木）

講演要旨の提出（2月22日締切）
・講演要旨原稿は定形のフォーマットを使用し（学会HP参照），Word形式で西日本支部事務局までe-mailにてお送り下さい．
・締切：2月22日（木）
・提出先：西日本支部事務局　尾上哲治（onoue.tetsuji.464@m.kyushu-u.ac.jp）

CPD単位証明書の発行　地質技術者への継続教育の一環として，大会参加者・発表者へCPD単位を発行します．大会参加と口頭発表の「受講証明書」は，支部会終了後に郵送いたします．
・口頭発表：5×発表時間（h）（15分の場合：5×1/4h=1.25単位）
・学会参加：1×滞在時間（休憩時間等は除く）

委任状　総会にご出席できない方は，下記様式の委任状を2月29日（木）までに支部事務局へお送り下さい（e-mailでも結構です）．

========== 委任状 ==========
日本地質学会西日本支部令和5年度総会・第174回例会における議決権を，
様に委任いたします．
令和　　年　　月　　日
御氏名：
==========
委任先が無記名の場合は，「議長」とさせて頂きます．

お問い合わせ先および委任状送付先（西日本支部事務局）
〒819-0395 福岡市西区元岡744
九州大学 理学研究院 地球惑星科学部門　尾上哲治
（tel: 092-802-4246，e-mail: onoue.tetsuji.464@m.kyushu-u.ac.jp）

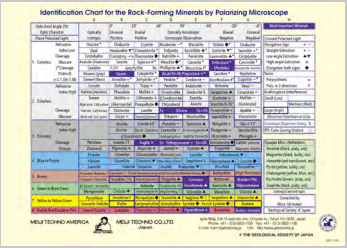
下敷き－干渉色図表・偏光顕微鏡による鉱物鑑定表－

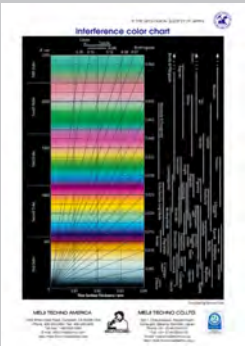
★リニューアルしました★

岩石学を学習する学生さんをはじめ，偏光顕微鏡を使用する全ての方々へ．ぜひ活用ください．

プラスティック製，A4 版，両面カラー，英語版

定価 400 円（会員頒価 300 円）（税込）
※2023.12 月価格改定





20 枚以上お買い求めの場合 30%OFF !!　公費払いにも対応いたします
ご注文は学会事務局まで（TEL03-5823-1150/main@geosociety.jp）

委員会だより

★地質技術者教育委員会

開催報告「2023年度　学生のための地質系業界説明会」
～その業界の仕事を知るためのサポートサービス～

地質系業界説明会は，学部生や院生（以下，学生），関係する教員に，将来の就職先の一つである地質系業界の実態や各社の業務内容などを知っていただくものであり，当学会の地質技術者教育委員会が中心となって開催した．この説明会に参加された企業・団体（以下，会社）の紹介資料を学会HPに掲載し，それを参考にして学生には，開催が異なる日時の対面説明会とオンライン説明会において希望の会社を訪問するというものであった．

(1) 参加した会社

参加会社は47社でこのうち22社が学会の賛助会員であり，この説明会を契機に４社が新たに賛助会員になってくださった．47社のうち32社が対面説明会に，35社がオンライン説明会にそれぞれ参加し，１社が学会ＨＰへの資料掲示であった．昨年に比べ，参加が12社，対面が９社，オンラインが３社，それぞれ増えた．

参加会社は以下のとおり（50音順，※は対面・オンライン説明会参加，○は対面説明会のみ参加，◇はオンライン説明会のみ参加，△は資料掲示のみ）．

㈱アーステック東洋○，㈱アサノ大成基礎エンジニアリング◇，㈱INPEX※，㈱エイト日本技術開発○，応用地質㈱※，川崎地質㈱※，基礎地盤コンサルタンツ㈱※，キタイ設計㈱○，クニミネ工業㈱◇，原子力発電環境整備機構※，㈱建設技術研究所※，鉱研工業㈱※，国際航業㈱◇，国土防災技術㈱○，㈱サクセン※，サンコーコンサルタント㈱○，三洋テクノマリン㈱○，三和ボーリング㈱※，四国建設コンサルタント㈱※，新協地水㈱△，シンワ技研コンサルタント◇，住鉱資源開発㈱◇，住友大阪セメント㈱◇，住友金属鉱山㈱◇，石油資源開発㈱※，大日本ダイヤコンサルタント㈱※，太平洋セメント㈱※，㈱高田地研◇，㈱地圏総合コンサルタント※，地熱エンジニアリング㈱※，中央開発㈱※，㈱ドーコン◇，トキワ地研㈱◇，㈱日さく※，日鉄鉱業㈱※，日特建設㈱※，㈱日本海技術コンサルタンツ○，日本海洋事業㈱◇，日本工営㈱○，㈱ニュージェック◇，ハイテック㈱※，㈱パスコ※，㈱阪神コンサルタンツ○，㈱蒜山地質年代学研究所○，㈱芙蓉コンサルタント◇，明治コンサルタント㈱※，山北調査設計㈱◇

(2) 対面説明会

①開催日時：2023年9月18日（月）13：00～17：00
②開催場所：京都大学吉田キャンパス（京都市左京区吉田本町）の吉田南総合館1階の共北11・12講義室および共東12講義室
③参加費：無料（学生は，日本地質学会会員，非会員を問わず学術大会への参加登録は不要で参加費は無料．ただし，その場合は学術大会の他の企画には参加できない．）
④参加会社：32社（2022年度23社）
⑤参加学生：27大学，78名，延べ訪問数216，学生1名当り2.8社訪問，会社1社当り6.8名訪問（2022年度：20大学，54名，延べ訪問数202．学生1名当り3.7社訪問，会社1社当り8.4名訪問）．
※訪問時間が2022年度より1時間短いため学生1名当りの訪問数が少なく，あわせて参加会社数が多くなったので会社1社当りの訪問数が少なくなった．

(3) オンライン説明会

①開催日時：2023年9月22日（金）13：00～17：40
②開催方法：Zoomを用いたオンライン方式
③参加費：無料（学生は，日本地質学会会員，非会員を問わない）
④参加会社：35社（2022年度32社）
⑤参加学生：15大学，26名，延べ訪問数109，学生１名当り4.2社訪問，会社1社当り3.1名訪問（2022年度：16大学，41名，延べ訪問数198．学生1名当り4.8社訪問，会社1社当り6.4名訪問）
※訪問時間が2022年度より1時間20分短いため学生1名当りの訪問数がやや少なく，あわせて参加会社数が少し増え学生数が大きく減少したので，会社1社当りの訪問数が少なくなった．

(4) 参加状況

対面説明会の会場が大会受付の渡り廊下向いという好条件であったため，当日参加が12大学，57名もあり，2022年度を上回る盛況となった．地質調査系，建設コンサルタント系，資源系，測量系，建設系などの幅広い分野について，全国展開型や地域密着型の会社など様々な会社があって，参加した学生には豊富な情報源になったものと考える．一方，スペースの関係などで3名までとした説明員数を上回る会社があったことや，学生へのブースへの勧誘を個別に行う会社があったことは，今後の運営課題である．

オンライン説明会は，2022年度同様学術大会期間と重ならないように開催した．2022年度と比べると，参加会社が3社増えたにもかかわらず，学生数は37％，延べ訪問数は45％といずれも大きく減少した．会社にとっては学術大会開催地に社員を派遣しなくても会社説明ができることから増えたものと思われるが，学生の参加状況が昨年度を大きく下回ったことから，広報のやり方などについてさらなる工夫が必要である．

(5) アンケート結果

アンケートは対面説明会とオンライン説明会に参加した会社と対面説明会に参加した学生に対して，それぞれ行った．結果のグラフは紙面の関係で別のページに掲載する．

①参加会社

対面説明会では時間設定，会場の広さ，対応人数などについては概ね好評だった．オンライン説明会では参加学生数や１コマ35分の長さは概ね好評だったが，開催時間（13:00～17:40）が長いという指摘があった．1コマ35分とすると開催時間では8コマとなり，1人の学生が訪問できる会社数の上限に当たる．企画段階で短くしようとしたが，参加会社が31社と多くなったので学生にできるだけ多くの会社を訪問してもらいたいために上記の時間となった．昨年より時間を短くしたが，参加学生が少なかったため企業担当者が長く感じた可能性がある．

2つの説明会を通して，参加費用は適切であり，来年も参加したい，とくに対面説明会とオンライン説明会の両方に参加したいという評価であったので，来年も同様の企画を開催したい．

②対面説明会への参加学生

回答率が3割程度と低いが，満足度は高く，会社から必要な情報を入手することができたという回答には企画側としては大いに喜んでおり，企画してよかったと考えている．一方で，学

対面説明会の状況例　（各社の状況は下記のURL参照）
http://geosociety.jp/engineer/content0071.html

会担当者の案内が学生の自由度を妨げるといった意見もあった．当日参加の学生には会場が分割していたこともあり，希望に応じて案内するのが効果的であると判断した．運営方法については今後委員会内で検討する．

開催の情報については少なくとも1週間以上前には入手していたものの，申し込みは参加できるかどうかの判断のために開催の1週間前になったケースが多かったようである．

③オンライン説明会への参加学生

回答が3名と極めて少ないので，評価は難しい．今回のアンケート依頼は説明会終了後少し時間をおいてだったので回答が少なかったのかもしれない．今後はアンケート依頼について改善したい．

④開催情報は学会情報（HPやメール（ジオフラッシュ））以外に，大学や指導教員からの案内も多く，いろいろな媒体で情報を入手していたようである．一方，HPに掲載した各社の紹介資料（今年の12月末までは学会HPに掲載予定．下記URL参照）の事前視聴が少なく，存在自体を知らなかったケースがあるので，来年は広報の仕方を工夫して，さらに充実した企画として開催したい．

https://confit.atlas.jp/guide/event/geosocjp130/static/gyokai_support#sanka

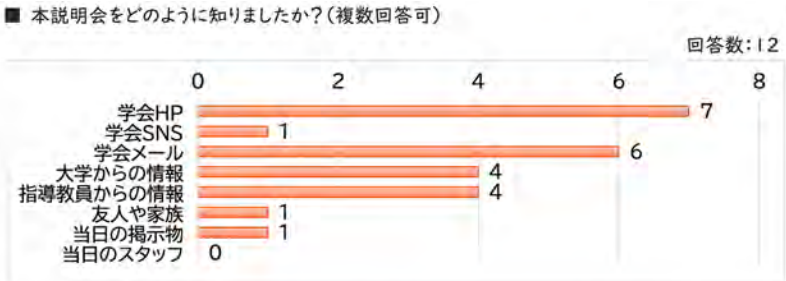
(6) 謝辞

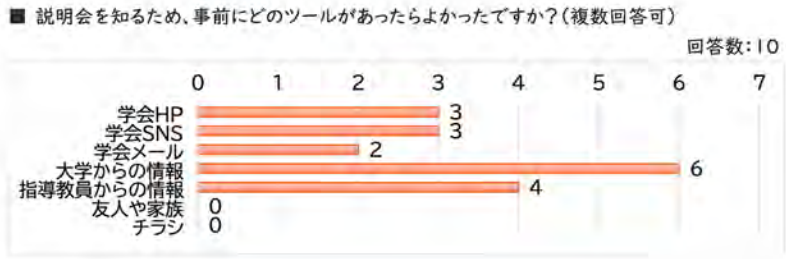
参加された多くの各社，とくに当日説明対応をしてくださいました各社のご担当者様，会社訪問された学生の皆様，対面説明会会場の手配にご尽力いただきました京都大学のLOC委員の皆様，開催についていろいろ段取りをしていただきました行事委員会および学会事務局の皆様，本説明会情報を広めてくださいました広報委員会の方々，そして学生に情報を伝達していただきました多くの大学教員の皆様に深く感謝申し上げます．

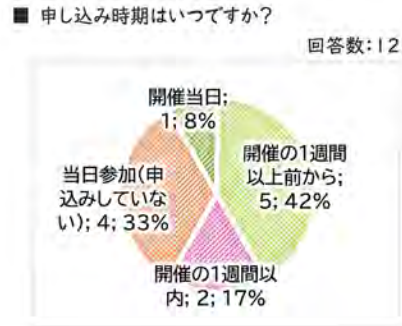
（理事・地質技術者教育委員会副委員長　**佐々木和彦**）

オンライン説明会の状況例（各社の状況は下記のURL参照）
http://geosociety.jp/engineer/content0072.html

【学生（対面参加者）】アンケート結果



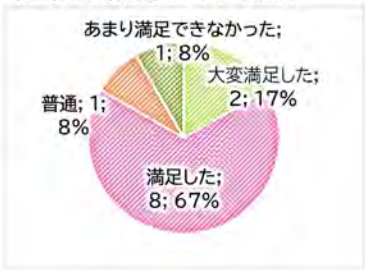




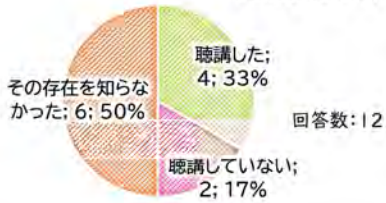
■ 企業・団体から得たい情報は何ですか？（最大3つまで選択）

その他：・自分の専門分野を生かせるかどうか

■ 本説明会の満足度はいかがでしたか？



■ 事前に企業・団体の紹介ビデオ・資料（HPに掲載）を聴講しましたか？

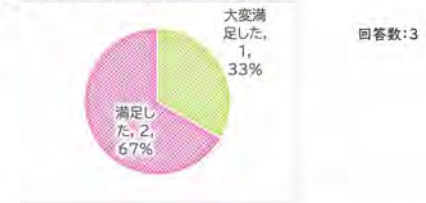


【学生（オンライン）】アンケート結果

【学生（オンライン参加者）】

■ 本説明会をどのように知りましたか？（複数回答可）

■ 本説明会の満足度はいかがでしたか？



■ 説明会を知るため、事前にどのツールがあったらよかったですか？（複数回答可）

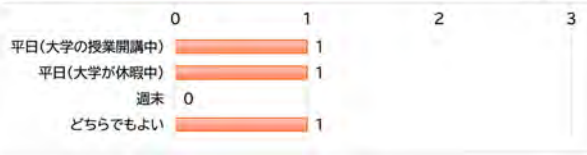
■ 事前に企業・団体の紹介ビデオ・資料（HPに掲載）を聴講しましたか？

■ 本説明会の開催をいつ知りましたか？

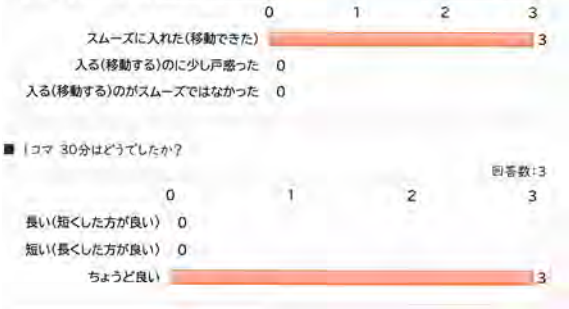
■ 申し込み時期はいつですか？

■ 企業・団体から得たい情報は何ですか？（最大3つまで選択）

■ 参加しやすい日程はいつですか？



■ 企業ブース（ブレークアウトルーム）へはスムーズに入れましたか？
また、企業ブース間の移動はスムーズでしたか？　回答数：3



■ 1コマ 30分はどうでしたか？　回答数：3

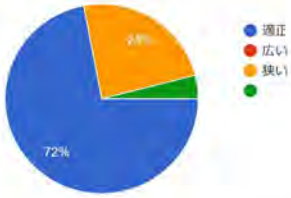
【企業・団体】アンケート結果

【企業・団体】

1. 対面説明会（回答者のうち参加者数：25）　回答数：33

■ 開催時間（13:00～17:00）はどうでしたか？
24 件の回答

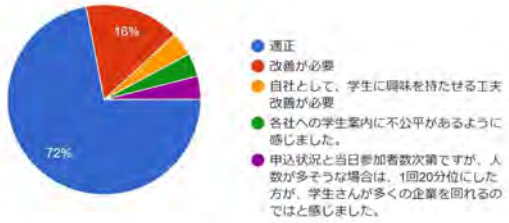
■ ブースの広さはどうでしたか？
25 件の回答



■ 机の広さ、パネルの大きさはどうでしたか？
25 件の回答

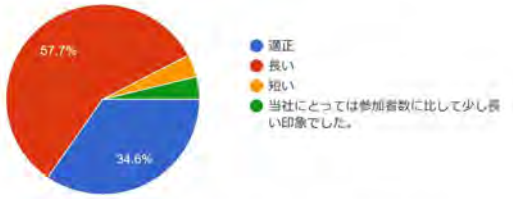
■ 電源の数はどうでしたか？
25 件の回答

■ 運営方法はどうでしたか？
25 件の回答

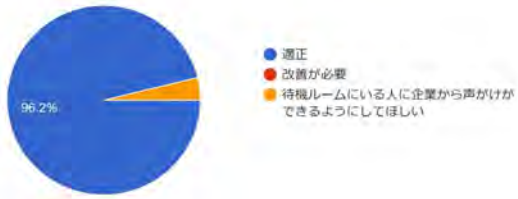


2. オンライン説明会（回答者のうち参加者数：26

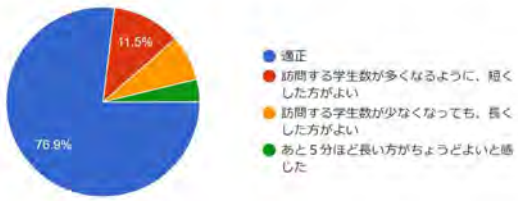
■ 開催時間（13:00～17:40）はどうでしたか？
26 件の回答



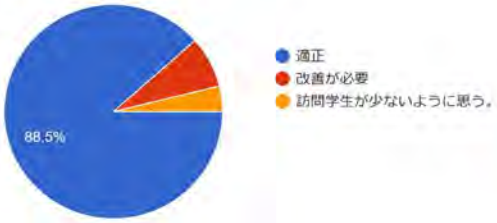
■ Zoomのブレイクアウトルームの設定はどうでしたか？
26 件の回答



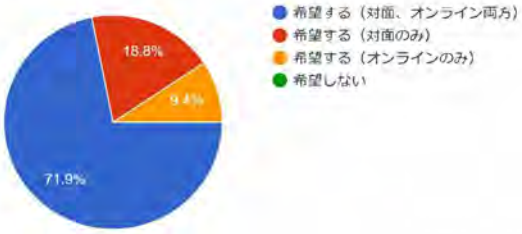
■ 1コマの長さ（30分）はどうでしたか？
26 件の回答



■ 運営方法はどうでしたか？
26 件の回答

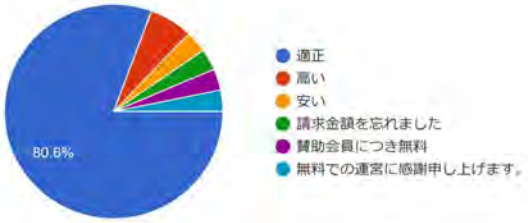


■ 今後も業界説明会の開催を希望しますか？
32 件の回答

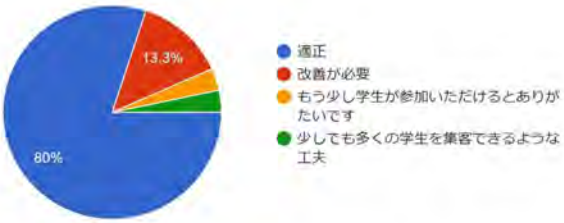


3. 対面・オンライン説明会共通

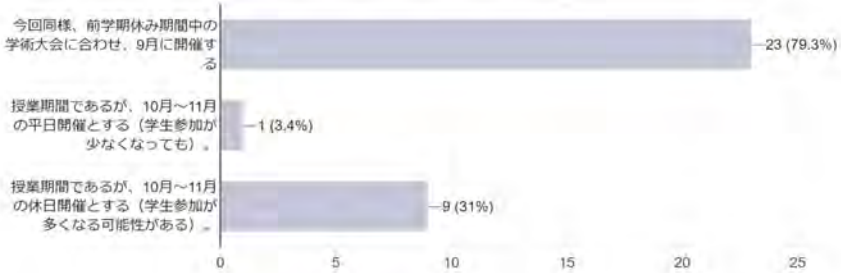
■ 参加費用はどうでしたか？
31 件の回答



■ 全体の運営や連絡方法・内容についてどうでしたか？
30 件の回答



■ オンライン説明会の開催時期はどうですか？（複数回答可）
29 件の回答



2024 年度の会費払込について

一般社団法人日本地質学会 運営財政部会

一般社団法人日本地質学会運営規則（以下、運営規則）により 2024 年度の事業年度（会費年度）が始まる前までに納入下さいますようお願いいたします．2024 年 4 月～ 2025 年 3 月の会費額は下記の通りです．

会員資格	2024年4月～2025年3月分会費
正会員（シニア会員・一般会員）	12,000円（※1. 参照）
〃　（学生会員） ※学生証の写しを提出した者に限る	5,000円
＊１：学生会員はパック制度による会費の納入方法を選択することができます．ただし，一括納入のみ． **２年パック８,000円**（2024～2025年度分）／ **３年パック9,000円**（2024～2026年度分） ＊２：学生会員の会費は、過去年度に遡っての申請はお受けしません．	

①自動引き落としを登録されている方の引き落とし日は 12 月 25 日（月）です．

2024 年度分会費の引き落とし日は 12 月 25 日です．請求書ならびに引き落とし通知の発行は省略させていただきますのでご了承ください．これより以前に不足額がある場合には加算され，余剰金がある場合はその分を減額して引き落としとなります．通帳には金額とともに「チシツカイヒ」あるいは「フリカエ」「ＳＭＢＣ」などと表示されますので，必ずご確認ください．

②自動引き落としをご利用ください．

新たに会費の自動引き落としをご希望の方は，10 月号ニュース誌巻末の振替依頼書をご提出ください．

一度手続きをしていただきますと，振込みのために金融機関へ出向く必要もありませんし，会費の未納防止にもなります．自動引き落としの申込は随時受付しています．今回（12 月以降に）お申込みいただいた方は，2024 年 6 月の督促請求時に引落させていただきます．

③お振り込みの方

12 月中旬頃までに請求書兼郵便振替用紙を発送いたします．折り返しご送金下さいますようお願いいたします．

１．在会年数（会費納入年数）に応じた会費減額について～ 2024 年度会費から適用予定～

2023 年度から，正会員は当該年度 4 月 1 日時点で “65 歳以上 ” のシニア会員と “65 歳未満 ” の一般会員とに細分しています．

シニア会員と一般会員の方のうち，会費未納がなく在会 40 年あるいは 50 年（連続年数でなくても合計年数でも可）に達した場合は，2024 年度以降の会費からそれぞれ会費減額を行います．

・在会 40 年以降　11,000 円（1,000 円割引）
・在会 50 年以降　10,000 円（2,000 円割引）

新制度スタート後からの割引制度となります．2022 年度より以前に在会年が 40 年あるいは 50 年以上となっている方々も，2024 年度会費から割引会費を適用します（申請や手続きは不要です）．何卒ご承知おきください．

２．除籍対象年数の規則変更について．長期滞納者の会員はご注意下さい．

運営規則の一部改正（2022 年 6 月）により，2023 年度からは除籍対象となる滞納年数が『滞納 4 年度目』から『滞納 3 年度目』に変更となりました．該当する方には個別にご案内することとなりますが，くれぐれもご注意下さい．

運営規則第 7 条（会費）第 4 項（4）

（4）会費支払いの督促を受けつつ，正当な理由なく，かつ，退会届を提出せぬままに会費を滞納した会員は，**滞納 3 年度目**をもって，理事会の議決により会員の資格を喪失させ除籍とする．

会費額についてご不明な点がある場合やその他確認したいことがある場合は，
日本地質学会事務局へお問い合わせ下さい．
（e-mail：main@geosociety.jp ／ FAX：03-5823-1156 ／ TEL：03-5823-1150）

学　会　記　事

2023年度第1回
理事会議事録

日　時：2023年9月9日（土）14:00～16:00
【WEB会議形式】
出席役員：出席理事37名，出席監事2名
・会長1名：岡田　誠
・副会長2名：杉田律子・星　博幸
・常務理事1名：中澤　努
・副常務理事1名：緒方信一
・執行理事11名：保坂（内尾）優子・内野隆之・加藤猛士・亀高正男・小宮　剛・坂口有人・髙嶋礼詩・辻森　樹・松田達生・矢部　淳・山口飛鳥
・理事会議長1名：小松原純子
・理事会副議長1名：大橋聖和
・理事22名（議長・副議長を除く）：芦　寿一郎・青矢睦月・天野一男・磯﨑行雄・大友幸子・笠間友博・本郷（川村）紀子・北村有迅・平出（黒柳）あずみ・桑野太輔・斎藤　眞・佐々木和彦・高野　修・野田篤・細矢卓志・保柳康一・榊原（堀）利栄・松田博貴・三田村宗樹・矢島道子・山路　敦・山本啓司
監事（2名）：岩部良子・山本正司
事務局（1名）：澤木寿子
欠席役員：理事（10名）尾上哲治・狩野彰宏・神谷奈々・亀田　純・清川昌一・沢田健・下岡和也・菅沼悠介・西　弘嗣・道林克禎
・開催にあたり，今年度理事会議長として小松原純子理事，副議長として大橋聖和理事が選出された．
・議長は審議開始に際し，本日の書記として天野一男理事，桑野太輔理事を指名した．
・成立要件：理事総数50名の過半数25名 本日の出席者40名で本理事会は成立．
・議決：出席者の過半数21名

報告事項

1. 執行理事会報告（中澤常務）
　中澤常務理事より，本年5月以降の執行理事会議事録に基づいて説明が行われた（地質の日に関連したイベント，地質系大学の研究教育支援に関する日本地質学会との意見交換会，オンライン選挙システム，JISの改訂作業，講演会『関東地震から100年』，巡検案内書に関する検討　ほか）
2. 理事，委員会，研究委員会報告
1）総務委員会（亀高理事）
・会員動静（2023年8月末の会員数）について報告された．
・逝去会員（4名）の報告があり，黙祷を行った．
・オンライン選挙システムは，現在テスト操作・画面最終調整中である．
2）広報委員会（髙嶋理事）
　2023京都大会プレスリリースの内容が，資料に基づいて報告された．
3）行事委員会（山口理事・髙嶋理事）
・2023京都大会：髙嶋理事より，第130年学術大会準備状況について，資料に基づいて報告がなされた．また山口理事より学生優秀発表賞の審査について，報告があった．エントリーは121件．審査員登録は現在77名で，まだ不足しているため理事の審査員への登録が要請された．
・ショートコース（山口理事）：7月2日に年代測定をテーマに実施した．90名以上の参加があり好評であった．次回のショートコースは10/22に応力解析をテーマに再度開催予定であり，今年度中にもう1回の実施を計画している．
・その他：2024年山形大会の実施日程が決定した（2024年9月7日：アウトリーチ巡検，9月8－10日：講演，9月11－12日：巡検）．
4）国際交流委員会（岡田会長）
・6月末に公開されたIGC2024の2nd circularに関わる会員への会長メッセージを，本学会会員向けHPに公開した（7/24付）．
・その後，9/1に韓国LOCより巡検企画提案に関わる最終要請があったが，日本地質学会からの提案は行わない．との従来の立場は変更しない．
・MoU更新についてはIGC2024終了後に検討する．
・磯﨑理事より，従来の経緯についてのコメント，堀理事からはMoU再締結への希望が述べられた．
5）地質学雑誌編集委員会（小宮理事）
・文献欄の文字サイズを8から6ポイント程度に小さくすることとした．
・コンプライアンス文章を論文末尾から削除し，J-STAGE地質学雑誌トップページに掲載することとした．
・別枠日本語要旨を論文末から冒頭に移して，体裁を変更することとした．
6）Island Arc編集委員会（辻森理事）
・論文投稿数は，ほぼ去年と同程度であるが，一層積極的な投稿の要請がなされた．
7）表彰制度検討WG（中澤常務）
・資料に基づいて，ジュニアセッションの優秀賞・奨励賞の定義および選考方法を明確化したとの報告がなされた．
8）地学教育委員会（坂口理事）
・9/18ジュニアセッションの審査員の要請がなされた．
9）各賞選考委員会（三田村理事）
・資料に基づいて2024年度各賞候補者の募集への協力が要請された．応募の締切は2023年12月1日．
・より多くの理事に京都大会での学生優秀発表賞の審査員になってほしいとの要請がなされた．
・磯﨑理事より各賞の検討条件に，倫理綱領・行動規範の遵守を明文化したことが重要とのコメントがなされた．
10）ジェンダー・ダイバーシティ委員会（堀理事）
・資料に基づいて京都大会でのECS（Early Career Scientist）ロゴの活用について報告された．
11）若手活動運営委員会（桑野理事）
・資料に基づいて，若手巡検・研究集会（洞爺湖・有珠山ジオパーク）の実施報告（2023年7月8－9日実施）がなされた．
・京都大会での取り組みとして，若手を判別しやすいよう名札ケースを区別する取り組みや求職中シールを導入することが報告された．若手向け宿泊プランは，申込数が1件のみで実施しないこととしたが，今後も検討する．
・天野理事から，京都大会でのジオパーク支援委員会主催のランチョン『ジオパークで働く』への若手の参加の要請がなされた．
3. その他
・ニュース誌の送本希望の選択について（中澤常務）
　冊子のWEB公開の現状と経費削減を鑑み，ニュース誌の送本を希望制とする．送付不要な会員は，会員システム画面上で不要の手続きをすることにより，送本が中止される．その際，ジオルジュも合わせて送本が停止されるので注意が必要とのこと．送本選択は，毎月15日頃までに切り替えることで当月号の送本に反映される．

審議事項

1. 選挙管理委員会メンバーの選出（中澤常務）
　2024年度代議員および理事選挙・監事選挙の選挙管理委員会として，執行理事会よりメンバー5名の推薦があり，承認された．（委員長：金澤直人，委員：中里裕臣・山口直文・川上源太郎・河村知徳）
2. 若手事業運営委員会のメンバー追加（桑野理事）
　新たに3名の委員（谷元瞭太，柴田翔平，髙橋瑞季），副委員長1名（桑野太輔）の推薦を受け，審議の上承認した．
3. 総務委員会規則（案）の承認（加藤理事）
　総務委員会規則（案）が上程され，審議の上承認された．
4. 地質技術者教育委員会規則（案）の承認（坂口理事）
　地質技術者教育委員会規則（案）が上程され，審議の上承認された．
5. 地質技術者教育委員会メンバーの再任（坂口理事）
　他の委員会の委員任期に合わせるため，現委員を2024年総会まで任期1年で再任することが提案され，審議の上承認された．

監事報告

（岩部監事）若手の活動が活発化している点がとてもすばらしいと感じた．今後とも，学会として若手を一層支援していってほしい．
（山本監事）総務委員会・地質技術者教育委員会規則が整備された点が評価できる．今後他の委員会の規則も順次設定・整理し，委員会の活動を明確化していくことが大切であ

る．

以上

以上，この議事録が正確であることを証するため，議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する．

2023年10月20日
理事：議長　小松原純子
理事：副議長　大橋聖和
代表理事：会長　岡田　誠
理事：副会長　杉田律子
理事：副会長　星　博幸
監事：山本正司
監事：岩部良子
理事：出席理事名（省略）

2023年度
第2回執行理事会議事録

日　程：2023年8月5日（土）13:00－16:30
【WEB会議】
出席：岡田　誠，杉田律子，星　博幸，中澤努，緒方信一，内尾優子，尾上哲治，加藤猛士，狩野彰宏，亀高正男，小宮　剛，坂口有人，高嶋礼詩，辻森　樹，松田達生，山口飛鳥
監事：岩部良子
欠席：内野隆之，矢部　淳，（監事）山本正司
事務局　澤木
＊定足数（過半数：10）に対し，執行理事16名の出席
＊前回23-01議事録案は，本執行理事会にて承認された．

報告事項

1. 全体的報告
特になし．
2. 運営財政部会（亀高・加藤）
1）総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等＞
・地学オリンピック日本委員会から，オンラインシンポジウム：地学オリンピックと学校教育のこれから（8/6開催）への後援依頼があり，承諾した．
・東レ科学振興会の役員交代の連絡．退任：専務理事 紙野憲三氏，就任：専務理事 辺見昌弘氏．
・無機マテリアル学会新役員の連絡．会長：小島芳行氏（日本大），副会長：大倉利典（工学院大）
・石油資源開発株式会社役員の交代連絡．新任：取締役 手塚和彦氏
＜会員＞
1. 今月の入会者(25名)
・ジュニア会員（2名）牧野航大，池端友梨
・正会員（23名）
▷一般会員（3名）渡邊牧朗，WANG Wenjing，塩井宏幸
▷学生会員（20名⇒単年度7，2年パック9，3年パック4）淺野　凱，伊藤陽介，猪股雅美，岡崎正次，小笠原光基，一井直宏，金指由維，隅田　匠，TAMPAH Marshel E.，平岡　空，福田倫太郎，藤島誠也，藤原秀平，前原誠也，松崎茜，三上航大，三堀遼太，三村匠海，宮副真夢，八塚伸明
2. 今月の退会者なし
3. 今月の逝去者（1名）
・名誉会員（1名）鎮西清高（逝去日：2023年7月27日）
4. 2023年7末会員数
賛助：27，名誉：39，ジュニア会員：1，正会員：3177［うち一般2152，シニア848，学生177］合計3243（昨年比-55）
＜会計＞
・特になし
＜その他＞
・定款・規則類の整理について（加藤）（→審議事項へ）
・オンライン選挙システム（亀高）：テスト操作及び画面最終調整中．立候補者参照のボタンは，選挙公示される迄は一般会員には見ることができないように，改善する．執行理事会内で8月5日よりテストランを行い，不具合等を確認することとする．
3. 広報部会（内尾・松田）
1）広報委員会（内尾）
・HP及びSNS（Instagram）について検討作業中である．SNS（Instagram）は，学術大会時に運用できることが望ましいので，できるだけ進めて行きたい．HPは業者に見積相談中，また，SNS（Instagram）は，現在設定は完了しており，投稿についての運用を検討中．作業上必要なことについて広報委員会広報部会内で分担する等，進めて行く．
4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）
1）行事委員会（高嶋・山口）
・2023京都大会準備状況（高嶋）
巡検案内書の状況：受理：5件,著者修正対応中：3件,原稿未提出：1件．未提出の1件以外は大会開催までに受理or公開予定．
（1）講演申込526件（口頭271，ポスター255※ジュニアセッションを含む）．講演プログラムの編成，要旨校閲終了．プレスリリースおよびセッションハイライト推薦を世話人に依頼中．
（2）反省会を9月28日16時半からzoomで実施する。
・ショートコース第8回（7月2日）開催報告（山口）
同位体による地質学研究をテーマに２編開催した．20代30代の参加が多かった．次回は10月22日に応力解析をテーマとしている．
2）専門部会連絡委員会（尾上）
特になし．
3）国際交流委員会（辻森・岡田）
・IGC2024の2nd circularが6月末に公開され，それに関わる会員に対する会長メッセージを7月24日に学会HP上で会員向けに公開した．
4）地質標準化委員会（内野）
・次期JIS A 0204，0205改訂作業に向け，7/31に作業部会（地質調査総合センター地質標準検討委員会）が開催され，問題点のピックアップと議論が行われた．辻森理事からも鉱物・岩石関連でご意見を頂いた．各分野・学会の有識者から組織される「原案作成委員会」の体制作りは現在進行中．
・地質年代表（日本語版）が再アップデートされた．
5. 編集出版部会（狩野・小宮）
1）地質学雑誌編集委員会（小宮）
（1）編集状況報告（2023年8月4日現在）
・2023年投稿論文：41（昨年比-6）［内訳］論説16（和文16），ノート3（和文3），レター5（和文5），報告6（和文4，英文2），フォト2（和文2），討論1（和文1），巡検案内書8
査読中：31，受理済み：4
・129巻：公開済み29（388ページ），入稿・校正中8
・雑誌のレイアウト変更について：日本語要旨を論文冒頭（abstractの後）にレイアウト案を確認し，このレイアウト案を承認した．文献欄のフォントサイズ変更と合わせて編集委員会で確認後，入稿原稿から速やかに適用する．
2）アイランドアーク編集委員会（狩野）
（1）編集状況報告
19編発刊済み．2023年の投稿数は36編で例年並み．
3）企画出版委員会（松田）
特になし
6. 社会貢献部会（坂口・矢部・内野）
1）地学教育委員会（坂口）
・2023京都大会ジュニアセッション16校25件の講演申込があった．講演数は過去大会よりも増加した．
2）地質技術者教育委員会（坂口）
・学生のための地質系業界説明会：
▷47社（対面32社，オンライン35社，両方21）が申し込み．非賛助会員が26社，賛助会員が21社（うち3社が新規入会）．大学からの後援が12校．
▷昨年度よりも対面で8社増加し，会場ブースの確保が今回も苦労したことから，来年度以降の更なる企業の参加増加を想定して検討する必要がある．説明会に来場する学生をより増やすために，より来場しやすい環境を整える．高校生が来訪できるシステムも必要．今後は高校に出向いて，地球科学の社会分野活躍についての説明をするなど，将来の芽を育てる活動を検討する．
▷企業への参加案内については，開催地の企業の参加も近年増加しているので，地域の企業への案内も進める．
・JABEE広報：例年通り高校向けのJABEE

広報ポスターの配布を実施する．出資大学と調整する．今年で3年目となり順調に推移している．
・地質系若手のためのキャリアビジョン誌：例年通り年度末発行を目指して準備を進める．
・第4回JABEEシンポジウム：例年通り年度末にシンポジウム開催の準備を進める．
3）生涯教育委員会（矢部）
特になし．
4）地震火山地質こどもサマースクール（星）
・本年の「地震火山地質こどもサマースクール in 平塚」は8/17, 18の2日間開催予定．運営委員会が鋭意準備中．松田理事が運営委員として出席する予定．
5）地質の日（矢部）
特になし．
7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織
1）利益相反マネージメント委員会（中澤）
特になし．
2）若手育成事業検討WG（内野）
特になし．
3）表彰制度検討WG（中澤）
特になし．
8. 理事会の下に設置される委員会
1）ジオパーク支援委員会（矢部）
特になし．
2）地学オリンピック支援委員会（坂口）
特になし．
3）支部長連絡会議（杉田）
特になし．
4）地質災害委員会（松田）
・関東支部と共催の関東地震100年関連行事である講演会「関東地震から100年」のお知らせが7月31日付けでホームページに掲載された．受付は9月1日から開始．学会からも松田理事が挨拶を予定．
5）名誉会員推薦委員会（星）
特になし．
6）各賞選考委員会（中澤）
特になし．
7）ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）
特になし．
8）連携事業委員会（中澤）
特になし．
9）法務委員会（中澤）
特になし．
10）若手活動運営委員会
特になし．
9. 研究委員会
1）南極地質研究委員会（委員長　大和田正明）
特になし．
2）法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）
特になし．
10. その他
1）巡検案内書ワーキンググループ（杉田）
8月17日会合開催予定．案内書が期限内に投稿・受理されるために，巡検案内者（案内書執筆者）の選定・依頼には，LOCは事前に行事委員会とも確認，相談することが望ましいのではないかとの意見があがっている．

審議事項

1. 2023京都大会の巡検コースについて（高嶋）
一部のコースはいまだに案内書原稿の投稿に至っていない．未登校のコースについては，実施当日は案内者手製の案内書を配布していただき，催行の有無に関わらず，原稿は2023年中に投稿していただくことでLOC，案内者に確認した．また，学術大会巡検コースの申込状況の開示は，来年度からは詳細人数ではなく状況のみ（定員締切．まもなく締切…等）開示する．
2. 今後の学術大会関連のプレスリリースについて（高嶋）
現在，学術大会講演に関するプレスリリースは，各セッション世話人が該当する講演を推薦し，行事委員会の審議を経て，広報委員会が主導して行っているが，学術大会開催時期とタイミングが合うプレスリリースは限られてくるため，今後のプレスリリースは地質情報展・市民講演会等の普及行事の情報を中心とし，講演についてはハイライトや開催地域の話題等タイトルのみリストにしてプレスリリースに含めることが提案された．広報委員会と行事委員会でたたき台を作成して，議論を進める．
3. 地質技術者教育委員会の任期（坂口）
学会の委員会組織の整理が行われた際に，本委員会は先行して委員の任期確認と改選が行われたため，他委員会と改選時期が1年ずれた状態が続いている．他委員会と改選時期を整合させ，足並みを揃えたい．そのため，任期終了時（2023年6月総会）まで遡り，今年度1年間を再任（任期：～2024年度総会まで）することとして，理事会に上程する．
4. 若手人材動向調査（坂口）
地質技術者教育委員会より，これまでは大学に所属する会員個人を通じて標記調査が行われてきたが，組織間調査として学会から学科長等宛に依頼するのが望ましいと考えるため，会長及び委員長名で学科長等に依頼したい旨の要望があった．議論の結果，組織間調査よりも個人宛のほうが情報収集の精度が良いと考えられるため，文面の宛先は学科長宛とするが，実際のやりとりは，従来通り所属会員に向けて依頼する形が望ましい．なお，若手人材動向調査は，地質系の若者の動向を知る上での基礎データなので，継続して調査する方針が改めて確認された．
5. 総務委員会規則（案）の承認（加藤）
総務委員会規則（案）が上程された．細部について詰めたのち次回理事会へ上程する．この規則内容・文書形式が今後の委員会規則の検討の基礎資料となると考えられる．
6. ジュニアセッションの優秀賞・奨励賞の選考について
表彰制度検討WGより，これまでジュニアセッションの優秀賞・奨励賞の選考基準が，明瞭に規定されていなかったことについて，フィールドワークの有無に関係なく得点順に優秀賞（上位20%），奨励賞（優秀賞を除く上位25%）を目安に授与することが確認された．
7. 各賞候補者募集要領への被推薦者の倫理観に関する留意事項加筆について
表彰制度検討WGより，推薦者に対していわゆるコンプライアンス違反が無いことを確認する一文を募集要領に加筆したい旨の説明があった．規則のように厳密化すると運用が難しくなるので，学会の倫理綱領・行動規範やその他の法令及び社会通念上一般的な文言にとどめて加筆することとする．
8. ニュース誌の送本冊子の選択制について
ニュース誌の「送本不要」を選択した会員に対しては，ジオルジュの送本（年2回）も停止される．現在のシステム上，ニュース誌とジオルジュそれぞれの送本希望を確認し，発送を区別することは難しい．「送本希望」は，毎月15日頃まで会員情報画面上で，送本の「要・不要」を会員各自で選択してもらう．ニュース誌送本は不要だが，ジオルジュを受け取りたい場合は，ジオルジュ送本月（5月，11月）に合わせて，画面操作を行ってもらう．

監事コメント

（岩部監事）今回は特に，巡検案内書，ジュニアセッション，学会大会に関する内容が多く議論された．今大会にすぐに反映されなくても，学術大会をより良くしていくための議論であったと評価する．今後も中長期的な視点も含めて議論を進められたい．

以上

2023年9月9日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田　誠
署名人　執行理事　中澤　努

2023年度
第3回執行理事会議事録

日　程：2023年9月9日（土）10:00－12:00
【WEB会議】
出席：岡田　誠，杉田律子，星　博幸，中澤努，緒方信一，内尾優子，尾上哲治，加藤猛士，狩野彰宏，亀高正男，小宮　剛，坂口有人，高嶋礼詩，辻森　樹，松田達生，山口飛鳥
監事：岩部良子
欠席：内野隆之，矢部　淳，（監事）山本正司
事務局　澤木
＊定足数（過半数：10）に対し，執行理事16

名の出席
＊前回23-02議事録案は，本執行理事会にて承認された.

報告事項

1. 全体的報告
・全国地質調査業協会創立60周年記念式典（10/20）への招待があった．岡田会長出席予定.
・防災科学技術研究所創立60年記念式典（11/16）への招待があった．杉田副会長が出席予定.
2. 運営財政部会（亀高・加藤）
1）総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等＞
・社会地質学会より，第33回社会地質学シンポジウム（11/24－25;於日本大学文理学部・ハイブリッド）への後援依頼があり，承認した.
・第23回こどものためのジオ・カーニバル（11/4-5；於大阪市立自然史博物館）への後援依頼があり，承認した.
・中谷医工計測技術進行財団より，「科学教育振興助成募集（募集期間10/1－11/30)」および「次世代理系人材育成プログラム助成募集（10/1-11/20)」の案内があった【→geo-flash,ニュース誌9月号掲載】
・山田科学振興財団2024年度海外研究援助課題公募（10/31締切）の募集があった【→geo-flash,ニュース誌9月号掲載】
・山田科学振興財団2023年度研究援助（2023/2/28締切）への地質学会推薦応募2件は不採択となった.
・地学団体研究会より（声明）1．福島第一原発の「処理水」海洋放出を強行せず，汚染水発生量の抜本的な削減を求める/2．GX脱炭素電源法（原発回帰法）の成立に抗議する/3．学術会議の独立性を脅かす政府の「有識者懇談会」に反対し，真に「開かれた協議の場」の設置を求める（2023年8月25日付）が送付された.
・The 19th International Conference on Thermochronology（Thermo2025）（第19回国際熱年代会議：2025年9月14～19日；於金沢）への共催依頼があり，承諾した．2025年度科研費申請も含め，協力体制を取る.
＜会員＞
1. 今月の入会者（25名）
賛助会員（1社）：三洋テクノマリン株式会社
正会員（9名）
一般会員（2名）：鈴木拓馬，髙見幸恵
学生会員（7名⇒単年度：2，2年パック：2，3年パック：3）：吉田　頌，遠藤　拓，中井花，髙﨑理央，奥脇健生，井上　創，鈴木優花
2. 今月の退会者
正会員（4名）
一般会員（4名）：笠原慎平，細田未季，高澤拓夢，石山恭行
3. 今月の逝去者
正会員（1名）
シニア会員（1名）：西田民雄（逝去日：2023年8月17日）
4. 2023年8月末会員数
賛助：29，名誉：38，ジュニア：3，正会員：3201［一般：2151，シニア：847，学生会員：203］　合計3271（昨年比-33）
＜会計＞
・下敷き増刷について（→審議事項）
＜その他＞
・特になし
3. 広報部会（内尾・松田）
1）広報委員会（内尾）
・学術大会プレスリリース（→審議事項へ）
4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）
1）行事委員会（高嶋・山口）
・日本地質学会第130年学術大会（京都大会）準備状況
▷予定通り，完全対面式で口頭，ポスター，懇親会を実施する．シンポジウム1件，トピックセッション16件.
▷講演申込：口頭260件，ポスター266件の合計526件（Jrセッション含む），事前参加申込者720名（昨年563）（参考）昨年大会参加者数：686
▷表彰式の時間では十分な受賞スピーチの時間が取れないため，小澤賞・柵山賞の記念スピーチを9/19（大会3日目）に実施する.
▷懇親会申込状況：131名
▷巡検催行について：9コース中，8コースが最少催行人数に達し，実施予定.
▷有料の企業ランチョンを開始⇒1件（ブルカージャパン）が応募
▷業界説明会：47企業（対面32，オンライン35，両方21）が参加.
学生のエントリーが少ないので，ぜひ学生への周知をお願いしたい．若手活動運営委員会にも広報を依頼する.
▷巡検案内書：公開済み4件（C，G，H，I），受理済み2件（D, F），未受理2件（A，Eコース→査読後，著者返却中），未投稿1件（B：中止決定済み）
・2024山形大会準備状況
▷実施日程：2024年9月7日（アウトリーチ巡検），9月8-10日（講演会），9月11-12日（巡検）
▷巡検（7コース）・案内者，編集委員長の選定は終了．会場の仮予約は進行中.
・2025熊本大会（熊本大学）
▷大会委員長，会場，巡検担当者がほぼ決定.
2）専門部会連絡委員会（尾上）
・文科省より「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第３次）【仮称】の推進について」の意見募集（パブリックコメント募集）があり，各専門部会へ周知した．（募集締切：9月19日）
3）国際交流委員会（辻森・岡田）
・IGC2024対応について
4）地質標準化委員会（内野）
特になし
5. 編集出版部会（狩野・小宮）
1）地質学雑誌編集委員会（小宮）
（1）編集状況報告（2023年9月4日現在）
・2023年投稿論文：43（昨年比-6）［内訳］総説1（和文1），論説16（和文16），ノート3（和文3），レター6（和文6），報告6（和文4，英文2），フォト2（和文2），討論1（和文1），巡検案内書8
査読中：29，受理済み：3
・129巻：公開済み34（452ページ），入稿・校正中7
2）Island Arc編集委員会（狩野）
（1）編集状況報告
3）企画出版委員会（松田）
特になし
6. 社会貢献部会（坂口・矢部・内野）
1）地学教育委員会（坂口）
特になし
2）地質技術者教育委員会（坂口）（→審議事項へ）
3）生涯教育委員会（矢部）
地質の日の5月にオンラインの講演会を実施した．10月開催のジオパークの会議での講演会の有効性について報告することについて，良いこととして承認した.
4）地震火山地質こどもサマースクール（星）
・8/17-18地震火山地質こどもサマースクールin平塚　参加報告（松田）
5）地質の日（矢部）
特になし
7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織
1）利益相反マネージメント委員会（中澤）
特になし
2）若手育成事業検討WG（内野）
特になし
3）表彰制度検討WG（中澤）
特になし
8. 理事会の下に設置される委員会
1）ジオパーク支援委員会（矢部）
特になし
2）地学オリンピック支援委員会（坂口）
特になし
3）支部長連絡会議（杉田）
特になし
4）地質災害委員会（松田）
特になし
5）名誉会員推薦委員会（星）
特になし
6）各賞選考委員会（中澤）
特になし
7）ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）
特になし
8）連携事業委員会（中澤）
特になし
9）法務委員会（中澤）
特になし
10）若手活動運営委員会（星）（→審議事項へ）

特になし
9. 研究委員会
1）南極地質研究委員会（委員長　大和田正明）
特になし
2）法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）
特になし
10. その他
1）巡検案内書ワーキンググループ（杉田）
締切の前倒ししても，効果はなく，順守者の負担を増やすことになるため，前倒しは行わない．
巡検担当者が編集委員会と早い段階から連絡を密にすることが重要と考える．
巡検担当者決定後に，編集委員長が決定されるため，編集委員長決定後に巡検担当者の決定が行われることが良いと考える．
LOCと編集委員会との連携について，巡検担当者とは，巡検統括と巡検案内書編集委員長の内，巡検統括者の意味である．

審議事項
1. 2023京都大会学術大会関連のプレスリリースについて（内尾・高嶋）
例年通りの情報提供を行うが，今年は，特筆すべき学術発表の情報提供はなし．
2. 若手活動運営委員会の委員の追加（星）
委員会より提示の委員の追加と副委員長の任命について，確認した．理事会へ上程．
3. 地質技術者教育委員会規則（案）（坂口）
委員会より提示の規則案について確認した．理事会へ上程．句読点位置等体裁について微細な修正を要する．
4. 下敷き増刷について（亀高）
干渉色図表・偏光顕微鏡による鉱物鑑定表の下敷きの増刷について，大学等授業での定期的な需要もあるため，1500枚増刷を承認した．原材料費高騰のため販売価格を会員300円，非会員400円とする．
5. 理事会審議事項の確認
①選挙管理委員会メンバーの選出
②若手事業運営委員会のメンバー追加
③総務委員会規則（案）の承認
④地質技術者教育委員会規則（案）の承認
⑤地質技術者教育委員会メンバーの再任
6. その他
・地質学雑誌の引用文献に関する問題提起（ページチャージの対象から文献欄を外すことについて/文献欄の和英併記について）（小宮）
規則により文献欄は和英併記が必須となっており，紙幅に影響している．超過頁代金（著者負担）の対象から文献欄を外す配慮が必要でないか．との問題提起があり，議論した．文献欄は文字サイズの縮小化（6ポイント程度）によって頁数が抑制されるため，超過頁代金は現状ルールのまま継続する．なお，文献和英併記は，Web of Science への収録を目的としたためであったが，再度収録をめざすべきかどうか，収録のメリットを改めて明確にし，編集委員会からも意見を聴取することとなった．またWeb of Science以外のデータベース（例；Scorpusなど）も視野に入れてはどうかとの意見があり，地質学雑誌のデータベースへの収録状況を確認することとした．継続審議．
・各賞選考に関しての質問状について
海洋地質部会長，構造地質部会長連名の質問状が執行理事会宛に寄せられた．今回の選考について，選考結果の通知（落選の場合），選考理由の情報開示，選考プロセスの透明性と公正性に関わる内容であった．これを受けて指摘事項に関する各賞選考の現状認識を行った．回答については次回以降に検討することとし，継続審議とした．
・韓国IGC2024への対応と大韓地質学会とのMOU更新について
9/1，IGC韓国LOCより日本国内での巡検企画提案について最終要請があり，9/2，大韓地質学会よりMOU継続希望と大韓地質学会学術大会への招待レターが送付された．
IGC韓国LOCへは，懸案事項（日本海呼称問題，竹島巡検）について韓国からの正式な対応・回答がないままでは「未解決」の状態であり，学会としては協力できないとの従来の立場に変更はない．大韓地質学会とのMOUの更新は，IGC2024終了以降に改めて検討していきたい．今回の招待も辞退する主旨の返信を行う．

監事コメント
（岩部監事）時間の制約がある中で，理事会に臨める審議がなされていたと評価する．

以上

2023年10月14日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田　誠
署名人　執行理事　中澤　努

2023年度
第4回執行理事会議事録案

日　程：2023年10月14日（土）13:00－17:00
【WEB会議】
出席：岡田　誠，星　博幸，中澤　努，緒方信一，内尾（保坂）優子，内野隆之，狩野彰宏，亀高正男，小宮　剛，坂口有人，高嶋礼詩，辻森　樹，松田達生，矢部　淳，山口飛鳥
陪席説明：桑野太輔（若手活動運営委員会）
監事：山本正司，岩部良子
欠席：杉田律子 尾上哲治，加藤猛士
事務局　澤木
＊定足数（過半数：10）に対し，執行理事15名の出席
＊前回23-3議事録案は，本執行理事会にて承認された．

報告事項
1. 全体的報告
・9月21日付にて 2024年度代議員および役員選挙の告示を行い，オンライン選挙システムにて代議員選挙は，10月23日（月）10時より11月20日（月）17時まで立候補の受付を行う．ニュース誌9月号とホームページに，実施要領とスケジュールが掲載されている．また，選挙システムのテストランを実施中．現時点では問題なし．
2. 運営財政部会（亀高・加藤）
1）総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等＞
・石油技術協会より令和5年度秋季講演会（11/8；東京大学小芝ホール）への協賛依頼があり，承諾した．
・第61回アイソトープ・放射線研究発表会（2024年7月；日本科学未来館）への参画依頼があり，後援（広報協力，地質学会会員の発表可）として承諾した．
・蒲郡市生命の海科学より，第14回 地球惑星フォトコンテスト入賞作品展（12/2-2024/3/3）へ共催依頼があり，承諾した．
・山田科学振興財団2024年度研究援助候補者推薦依頼があった（2024/2/29締切，学会締切2/1）→【ニュース10月号，geo-flash掲載】
・第65回藤原賞受賞候補者推薦依頼があった（12/15締切，学会締切12/1）→【ニュース10月号，geo-flash掲載】
＜会員＞
1. 今月の入会者（正会員3名）
一般会員（1名）宮本昌幸
学生会員（2名：単年度1，3年パック1）長田美里，長尾優樹
2. 今月の退会者（一般会員1名）
小松原　琢
3. 今月の逝去者（名誉会員1名）
坂巻幸雄（逝去日2023年8月23日）
4. 2023年9月末会員数
賛助：30，名誉：37，ジュニア：3，正会員：3211［一般2152，シニア847，学生212］合計3281（昨年比-22）．会員数の減少傾向が抑制されつつあり，これまでの対策の効果が見られる．
＜会計＞
特になし
＜その他＞
・選挙システム：第2回運用テスト（理事選挙）を実施中．
・干渉色下敷の再作成を進めている．
3. 広報部会（内尾・松田）
1）広報委員会（内尾）
・学術大会時のプレスリリースの重要性を踏まえて今後もリリースを行っていく．インスタグラムは学術大会から運用を少しずつ開始した．今後も情報を分かり易く，

継続して追加更新していけるように進めていきたい.
・学会HPの構築については，複数業者より概算見積や情報収集を進めている．250万円程度の回答の業者が有るが，その他の業者にもヒアリングしていく．次の段階で見積をとり，より検討を具体化させる.
4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）
1）行事委員会（高嶋・山口）
・2024JpGUプログラム委員として，行事委員会から2名を選出した（正：松崎松崎賢史，副：宇野正起）
・日本地質学会第130年学術大会（京都大会）
大会参加者総数：783（会員657，非会員126）※ジュニアセッション，業界説明会参加者を除く．このうち，学生会員158，非会員（院生・学部生）67　参加者数は昨年度比約1.5倍.
懇親会参加者：約150
講演数：501（口頭271，ポスター230），講演キャンセル：9，発表者変更：2
巡検（ワークショップ含む）：9コース中8コースが実施された．1コースは最小催行人数に満たずに中止．巡検参加者数：124
CPD参加証明希望者：29
保育料補助申請：2（内訳：3日間1名，1日間1名）
業界説明会参加学生：（対面）27大学78名，（オンライン）15大学26名.
9/28京都大会の反省会を実施した．議事録は別紙のとおり.
学生優秀発表賞：39件
地質情報展：参加者約800名．学術大会と会場が近接しており，大会参加者の来場も多く見られ，盛況に行われた.
・2024山形大会：
「市民講演会『樹氷と出羽三山を知る』および地質情報展2024やまがた」に対して2024年度研究成果公開促進費の申請を行った．審査結果は，来年3月（正式通知は4月1日）．また，巡検コース最終案が提出された（→審議事項へ）
・2025熊本大会：
熊本大会LOCが決定した．実行委員長：松田博貴，事務局：（主）小松俊文・（副）田中源吾，巡検担当：湯口貴史
・ショートコース：
第9回ショートコース：応力逆解析法を10/22（日）に開催予定．参加申込締切10/16.
2）専門部会連絡委員会（尾上）
・特になし
3）国際交流委員会（辻森・岡田）
・IGC韓国LOC（9/1付）および大韓地質学会（9/2付）からの連絡に対して，10/5にそれぞれに返信を行った.
4）地質標準化委員会（内野）
特になし
5. 編集出版部会（狩野・小宮）
1）地質学雑誌編集委員会（小宮）
（1）編集状況報告（2023年10月10日現在）
・2023年投稿論文：48（昨年比-11）［内訳］総説1（和文1），論説20（和文20），ノート3（和文3），レター6（和文6），報告6（和文4，英文2），フォト2（和文2），討論1（和文1），巡検案内書8
査読中：29，受理済み：3
・129巻：公開済み35（460ページ），入稿・校正中：11
（2）その他
・地質学雑誌過去論文のAbstractのOCR作業についての検討状況：全文OCR（校正有り．無し），英文要旨のみOCRなどいくつかのパターンで見積を取った．過去分のJ-STAGE公開論文は，要旨がテキスト化されているものや画像のままのものが混在している．経費，作業量などを正確に見積もるために，過去分の公開状況を精査する必要がある．引き続き，確認・検討を進める.
・京都大会で編集委員会ランチョンを開催した．投稿のメリットを高めるためにも，Scopus等データベースへの収録について積極的に検討を進めていきたい.
2）Island Arc編集委員会（狩野）
（1）編集状況報告
・出版済み28編．受理済み4編．2023年投稿数47編．IF：0.65（漸次上昇中）
（2）その他
・現編集体制任期は2023年12月まで．後任体制を検討中.
3）企画出版委員会（松田）
・特になし
6. 社会貢献部会（坂口・矢部・内野）
1）地学教育委員会（坂口）
・京都大会ジュニアセッション報告：16校25件の発表があり，優秀賞7件，奨励賞4件を選考した.
2）地質技術者教育委員会（坂口）
・京都大会業界説明会報告：
▷（9/18対面企画）32社が出展．学生の参加：27大学78名，延べ訪問数：217社．1社当り3.2人の訪問．（9/22オンライン企画）35社が出展．学生の参加：15大学26名，延べ訪問数：109社．オンラインの学生参加が少なく，残念であった．次回以降の広報に注力するとともに，開催時期についても検討する.
▷対面出展のニーズが高く，地質系企業側からの本企画に対する期待は大きい.
▷キャリア教育の一環としてJr.セッション参加等の高校生へ向けた業界説明会も開催したい希望がある．セッション日程等も考慮して，今後前向きに検討したい.
3）生涯教育委員会（矢部）
特になし
4）地震火山地質こどもサマースクール（星）
特になし
5）地質の日（矢部）
特になし
7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織
1）利益相反マネージメント委員会（中澤）
特になし
2）若手育成事業検討WG（内野）（→審議事項へ）
特になし
3）表彰制度検討WG（中澤）
特になし
8. 理事会の下に設置される委員会
1）ジオパーク支援委員会（矢部）
特になし
2）地学オリンピック支援委員会（坂口）
特になし
3）支部長連絡会議（杉田）
・京都大会にてランチョンを開催した．支部発行の著作物の著作権とデータの管理について，地質学雑誌等の学会出版物同様，著作者から著作権譲渡同意書を提出していただく必要性と，著作物の管理方法について説明した．また支部の活動報告提出のお願いなど事務連絡を行った.
4）地質災害委員会（松田）
・関東支部と地質災害委員会共催で「関東地震100年関連行事」として講演会（zoom）を9月30日（土）に開催した（参加者約110名）．また12月2日（土）に震生湖巡検（案内者　千木良 雅弘氏）を予定している．観察場所は震生湖周辺および市木沢の中（神奈川県秦野市今泉）．詳細はホームページに掲載済み.
5）名誉会員推薦委員会（星）
・階層別委員の人選を開始し，11月の執行理事会までに内諾を得て，12月の理事会に上程予定.
6）各賞選考委員会（中澤）
・2024年度学会各賞候補者の募集を開始した（ニュース誌9月号，HPに掲載）．12月1日（金）締切.
7）ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）
特になし
8）連携事業委員会（中澤）
特になし
9）法務委員会（中澤）
特になし
10）若手活動運営委員会（星）
・学術大会時の「学生・若手のための交流会」開催について（→審議事項へ）
9. 研究委員会
1）南極地質研究委員会（委員長　大和田正明）
特になし
4. 法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）
特になし
10. その他
特になし

審議事項
1. 各賞選考に関する質問状について
海洋地質部会長，構造地質部会長より執行

理事会宛に，各賞選考について，①選考結果の通知（落選の場合），②選考理由の情報開示，③選考プロセスの透明性と公正性に関する質問があった．これを受けて指摘事項に関して議論を行った．質問と回答（予定）は以下の通り．

①今後選考結果の通知（落選の場合）行う予定があるか：推薦者には結果のみ簡潔に通知する方向で検討する．

②落選理由を推薦者に開示する予定はあるか：落選理由の開示はこれまで同様行わない．

③選考プロセスの透明性と公平性のための取り組みは行われているか：各賞選考規則第18条に則り，各賞選考委員会には「選考過程」を文書で理事会へ報告いただく．

2. 研究奨励金規則一部改正（使用期間の延長可）について（内野）

病気等やむを得ない事由で研究を中断せざるを得ない場合は，年度内に延長願を提出し，執行理事会が承認した場合，最大2年間延長できることとした．若手研究者育成のために，個別の事案にも柔軟に救済対応を行う方針を確認した．

3. 学術大会時の「学生・若手のための交流会」開催について（桑野委員）

若手活動運営委員会より山形大会での交流会開催についての審議依頼があった．若手交流会は参加人数も多く，会期中（ランチョン，夜間小集会）では時間の制約があり，十分な会合開催できないため，大会前日に開催したい．将来を担う若手の大切な交流機会であることを鑑み，例外として学術大会の企画の一部として前日開催を承認した．会場費は年会経費に含めて処理する．今後詳細を若手委員会で詰める．

4. 2024山形大会巡検コース案について（高嶋）

全7コースを計画されているが，コーステーマに少し偏りがある．各地質時代・地質構造・火成岩・変成岩・堆積岩等網羅的にテーマ設定されていることが望ましいので，アウトリーチ巡検の日程（土日開催）も含めてLOCに再考をお願いすることとした．

5. その他

東北新幹線で「地質調査会社」の男性による薬品漏れの事案があった件について，会員に向けての注意喚起，コメントを公表した方が良いのではないか，と会員から意見が寄せられた．現時点では，マスコミ報道以上の情報を得ていないので，学会として適切に判断できない．対応は保留とする．

監事コメント

（山本監事）来年度の代議員・理事の選挙について，新しいオンラインシステムによる選挙となるが，不正に対するチェック体制にも十分に留意して頂きたい．

（岩部監事）山形大会巡検について，会員の専門は多岐にわたるので，バランスよくコーステーマが設定されていれば，参加しやすくなり大変良いと思う．引き続き検討していただきたい．また各賞選考の質問状に関する審議で，コミュニケーションの重要性についても意見，議論があったが，会員からは様々な要望や意見が寄せられる．応えらない場合でも学会として真摯に分かり易い回答，対応を心がけて頂きたい．

以上

2023年10月14日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田　誠
署名人　執行理事　中澤　努

訃　報

本会の次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

名誉会員
鎮西清高（7月27日）
坂巻幸雄（8月23日）
松田時彦（10月17日）
志岐常正（11月13日）
水野篤行（11月20日）

正会員
田野崎隆雄（逝去日確認中）
香村一夫（4月17日）
中川雅之（4月28日）
西田民雄（8月17日）
古儀君男（11月5日）

表紙紹介

第14回惑星地球フォトコンテスト優秀賞
Lingshed Village

写真：**佐藤竜治**（静岡県）

撮影場所：インド ザンスカール地方，リンシェ村

撮影者より：インドのヒマラヤにあるラダック連峰の山奥，ザンスカール地方のリンシェ村です．献身なチベットの仏教の村で標高は約4000m．冬はマイナス30度以下になります．私は標高5000m超えの峠を二つ越え，4日間歩き続けこの村に辿り着きました．雨のほとんど降らないこの山の土地は砂漠のように乾いています．村のあるところにはヒマラヤの雪解け水の川が流れており，厳しい環境ながら大麦を育てられることで，人が住めます．太古の昔この山は海の底にありました．今では人類が住まう最高峰の村の一つであることも感動します．そしてこの地で出会い支えてくれた友人たちに心から感謝します．

審査委員長講評：撮影地はインド最北部でパキスタン・中国との国境間近，ヒマラヤ山系のインダス川源流に近い秘境です．滑らかな山腹と谷壁にのぞく地層，どのようにして出来たのか好奇心が湧いてきます．それとともにこのような場所で暮らす人々の生活や信仰にも興味が湧いてきます．（審査委員長　白尾元理）

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003 年 9 月 19 日　日本地質学会総会制定
2009 年 12 月 5 日　一般社団法人日本地質学会制定 *

日本地質学会の会員は，科学的真理を明らかにする事を目的として，誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う．その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り，もって社会の発展と人類の福祉に貢献する．会員は，基本的人権を守り，良識かつ品位のある行動をとる．

1. 科学者としての倫理：会員は，専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る．研究と調査においては，法を尊守し，社会的良識に従って行動する．科学的事実に対しては常に謙虚，誠実でなくてはならない．研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し，公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する．

2. 知的交流の確保：会員は，国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに，研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める．

3. 人類と社会への責務：会員は，その専門知識と技術を適切に活用し，研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する．

4. 地球環境への責務：会員は，地球システムの諸現象についての専門家として，地質災害の予知と防止，地球環境の将来予測，資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに，専門知識を活かして環境の保全と改善に努める．自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する．

5. 次世代への責務：会員は，地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展，次世代を支える人材の育成を図る．研究や調査の成果物，重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める．

*2009 年 12 月 5 日法人理事会において，一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定．

GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN
日本地質学会

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp